

OT05 Q001

脳血管障害・高次脳機能障害 > 片麻痺・Brunnstrom法 | 基礎

Brunnstrom recovery stage Iの特徴として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「共同運動から独立した分離運動がほぼ正常である」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 共同運動の随意的遂行はより後の段階でみられる。
- イ. 分離運動が十分可能なのは後期段階である。
- ウ. stage Iでは弛緩性で随意運動を認めない。
- エ. 痙縮が強まるのはstage II～IIIである。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「共同運動を随意的に完全遂行できる」に対応する説明で、判断対象「共同運動から独立した分離運動がほぼ正常である」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「共同運動から独立した分離運動がほぼ正常である」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「随意運動がみられず弛緩している」に対応する説明で、判断対象「共同運動から独立した分離運動がほぼ正常である」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「痙縮が最も強く分離運動が増える」に対応する説明で、判断対象「共同運動から独立した分離運動がほぼ正常である」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。分離運動が十分可能なのは後期段階である。判断対象は「共同運動から独立した分離運動がほぼ正常である」。Brunnstrom法では回復過程を、弛緩から共同運動の出現、分離運動の拡大へ段階的に捉える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q002

脳血管障害・高次脳機能障害 > 片麻痺・Brunnstrom法 | 基礎

Brunnstrom recovery stage IIでみられやすいのはどれか。この論点で、選択肢「痙縮が出現し始め、共同運動の要素がわずかに現れる」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 分離運動はまだ乏しい。
- イ. 正常化した段階ではない。
- ウ. stage IIでは痙縮が出現し、共同運動の一部がみられ始める。
- エ. 巧緻性が正常となる段階ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「分離運動が自由に行える」に対応する説明で、判断対象「痙縮が出現し始め、共同運動の要素がわずかに現れる」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「随意運動が完全に正常化する」に対応する説明で、判断対象「痙縮が出現し始め、共同運動の要素がわずかに現れる」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「痙縮が出現し始め、共同運動の要素がわずかに現れる」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「痙縮が消失し巧緻動作が正常となる」に対応する説明で、判断対象「痙縮が出現し始め、共同運動の要素がわずかに現れる」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。stage IIでは痙縮が出現し、共同運動の一部がみられ始める。判断対象は「痙縮が出現し始め、共同運動の要素がわずかに現れる」。stage IIでは運動回復の初期徴候を捉え、過度な努力で異常共同運動を強化しないように課題を設定する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q003

脳血管障害・高次脳機能障害 > 片麻痺・Brunnstrom法 | 標準

Brunnstrom recovery stage IIIとして最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「弛緩が続き随意運動がない」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. stage Iの特徴に近い。
- イ. 分離運動の拡大はstage IV以降である。
- ウ. stage IIIでは共同運動を随意的に遂行でき、痙縮が顕著となる。
- エ. 正常に近い協調性はstage VIに近い。

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「弛緩が続き随意運動がない」が誤答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「共同運動から外れた複雑な分離運動が十分可能である」に対応する説明で、判断対象「弛緩が続き随意運動がない」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「共同運動を随意的に行えるが、痙縮が強い」に対応する説明で、判断対象「弛緩が続き随意運動がない」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「運動速度・協調性が正常である」に対応する説明で、判断対象「弛緩が続き随意運動がない」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。stage Iの特徴に近い。判断対象は「弛緩が続き随意運動がない」。stage IIIでは共同運動パターンだけで動作を完結しないよう、支持や課題設定を工夫して分離性を引き出す。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q004

脳血管障害・高次脳機能障害 > 片麻痺・Brunnstrom法 | 標準

Brunnstrom recovery stage IV以降にみられる変化として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「痙縮が減少し、共同運動から外れた運動が可能になり始める」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. stage IVでは痙縮が減少し、共同運動から逸脱した分離運動が出現する。
- イ. 回復方向とは逆である。
- ウ. Brunnstrom stageは主に運動回復を段階化する。
- エ. 分離運動が増える段階である。

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「痙縮が減少し、共同運動から外れた運動が可能になり始める」が正答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「弛緩が進行して随意運動が消失する」に対応する説明で、判断対象「痙縮が減少し、共同運動から外れた運動が可能になり始める」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「感覚障害だけが改善する」に対応する説明で、判断対象「痙縮が減少し、共同運動から外れた運動が可能になり始める」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「共同運動しか行えなくなる」に対応する説明で、判断対象「痙縮が減少し、共同運動から外れた運動が可能になり始める」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。stage IVでは痙縮が減少し、共同運動から逸脱した分離運動が出現する。判断対象は「痙縮が減少し、共同運動から外れた運動が可能になり始める」。stage IV～VIでは分離運動の種類・速度・協調性を高め、実用動作へつなげる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q005

脳血管障害・高次脳機能障害 > 片麻痺・Brunnstrom法 | 標準

上肢Brunnstrom stage IIIの患者が、物を取ろうとすると肩外転と肘屈曲が強く一緒に出現する。最も適切な介入はどれか。この論点で、選択肢「上肢を全く使用しない」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 痙縮を増やす刺激を主目的としない。
- イ. 不使用は学習性不使用につながる可能性がある。
- ウ. 最大努力は異常共同運動を増強することがある。
- エ. stage IIIでは共同運動への依存が強いため、支持や重力条件を調整し分離性を促す。

OT05 Q006

脳血管障害・高次脳機能障害 > 片麻痺・Brunnstrom法 | 標準

弛緩性片麻痺で肩関節亜脱臼がある患者を移乗介助する際、最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「麻痺側上肢を引っ張らず、肩甲帯と上肢を支持して介助する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 疼痛を伴う無理な挙上は避ける。
- イ. 適切な支持・ポジショニングが必要である。
- ウ. 麻痺側上肢を牽引すると肩関節へ負担がかかる。
- エ. 弛緩期は肩周囲筋の支持性が低く、牽引による疼痛や軟部組織損傷を防ぐ必要がある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「痙縮を強める速い反復運動だけを行う」に対応する説明で、判断対象「上肢を全く使用しない」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「上肢を全く使用しない」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「共同運動を最大努力で反復させ続ける」に対応する説明で、判断対象「上肢を全く使用しない」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「課題を調整し、共同運動から外れた選択的な運動を少しずつ引き出す」に対応する説明で、判断対象「上肢を全く使用しない」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。不使用は学習性不使用につながる可能性がある。判断対象は「上肢を全く使用しない」。Brunnstrom stageは介入内容を固定するものではなく、現在の運動制御能力を把握して課題難易度を定める目安として用いる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「肩関節を痛みがあっても最大挙上する」に対応する説明で、判断対象「麻痺側上肢を引っ張らず、肩甲帯と上肢を支持して介助する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「上肢を常に下垂させる」に対応する説明で、判断対象「麻痺側上肢を引っ張らず、肩甲帯と上肢を支持して介助する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「麻痺側手を持って強く引き上げる」に対応する説明で、判断対象「麻痺側上肢を引っ張らず、肩甲帯と上肢を支持して介助する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「麻痺側上肢を引っ張らず、肩甲帯と上肢を支持して介助する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。弛緩期は肩周囲筋の支持性が低く、牽引による疼痛や軟部組織損傷を防ぐ必要がある。判断対象は「麻痺側上肢を引っ張らず、肩甲帯と上肢を支持して介助する」。片麻痺肩では肩甲上腕リズム、疼痛、亜脱臼、浮腫、感覚障害を確認しながら扱う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q007

脳血管障害・高次脳機能障害 > 片麻痺・Brunnstrom法 | 応用

脳卒中後の片麻痺患者で肩関節屈曲時に肩甲骨の上方回旋が乏しく、疼痛もある。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「肩甲骨を下方回旋位に固定する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 挙上時には適切な上方回旋が必要である。
- イ. 安全な上肢挙上には肩甲骨の上方回旋など肩甲帯運動が必要である。
- ウ. 疼痛は治療条件を再検討する重要な情報である。
- エ. 肩甲帯を無視した強制挙上は疼痛やインピンジメントを助長し得る。

OT05 Q008

脳血管障害・高次脳機能障害 > 片麻痺・Brunnstrom法 | 応用

片麻痺上肢に痙縮があるが、その筋緊張を利用して立位時に手すりを保持できている。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「筋緊張を下げることを目標にせず、実際の作業機能と安全性を踏まえて介入する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 痙縮は機能を妨げる場合も補助する場合もあり、生活機能への影響で判断する。
- イ. 利用可能な機能を活用する。
- ウ. 痙縮軽減自体が目的ではなく作業遂行の改善が目的である。
- エ. ADLは筋力、感覚、認知、環境など多因子で決まる。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「肩甲骨を下方回旋位に固定する」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「肩甲骨の可動性と位置を確認し、痛みのない範囲で肩甲帯運動を伴う挙上を促す」に対応する説明で、判断対象「肩甲骨を下方回旋位に固定する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「疼痛を無視して反復する」に対応する説明で、判断対象「肩甲骨を下方回旋位に固定する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「上腕骨だけを固定して頭上まで強制挙上する」に対応する説明で、判断対象「肩甲骨を下方回旋位に固定する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。挙上時には適切な上方回旋が必要である。判断対象は「肩甲骨を下方回旋位に固定する」。麻痺側肩の治療では上腕骨だけでなく肩甲帯・体幹を含めた運動連鎖を評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「筋緊張を下げることを目標にせず、実際の作業機能と安全性を踏まえて介入する」が正答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「痙縮があれば上肢使用を禁止する」に対応する説明で、判断対象「筋緊張を下げることを目標にせず、実際の作業機能と安全性を踏まえて介入する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「痙縮は必ず完全に除去すべきである」に対応する説明で、判断対象「筋緊張を下げることを目標にせず、実際の作業機能と安全性を踏まえて介入する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「痙縮の程度だけでADL能力を決める」に対応する説明で、判断対象「筋緊張を下げることを目標にせず、実際の作業機能と安全性を踏まえて介入する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。痙縮は機能を妨げる場合も補助する場合もあり、生活機能への影響で判断する。判断対象は「筋緊張を下げることを目標にせず、実際の作業機能と安全性を踏まえて介入する」。治療では impairment の変化と activity・participation の変化を区別し、本人の目標に結び付ける。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q009

脳血管障害・高次脳機能障害 > 片麻痺・Brunnstrom法 | 標準

座位で体幹が麻痺側へ崩れると、麻痺側上肢のリーチが著しく不安定になる。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「上肢だけを高速で動かす」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 適切な支持下で使用機会を作る。
- イ. 近位部が不安定なまま速度を上げても運動の質が低下しやすい。
- ウ. 上肢機能は体幹・肩甲帯の姿勢制御に影響される。
- エ. 姿勢は作業遂行の基盤である。

OT05 Q010

脳血管障害・高次脳機能障害 > 片麻痺・Brunnstrom法 | 標準

Brunnstrom stageを治療経過で用いる際に最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「運動回復段階の変化を把握し、他の機能・ADL評価と合わせて治療計画を修正する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 片麻痺の作業遂行には多面的評価が必要である。
- イ. 同じstageでも実用性や生活状況は異なる。
- ウ. stageは運動回復の一側面であり、他の評価と統合する。
- エ. 退院には生活能力、環境、支援体制など多くの要因が関わる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「麻痺側上肢を全く使わせない」に対応する説明で、判断対象「上肢だけを高速で動かす」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「上肢だけを高速で動かす」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「骨盤・体幹の支持を調整し、安定した姿勢から上肢活動を行う」に対応する説明で、判断対象「上肢だけを高速で動かす」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「体幹の崩れを無視する」に対応する説明で、判断対象「上肢だけを高速で動かす」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。近位部が不安定なまま速度を上げても運動の質が低下しやすい。判断対象は「上肢だけを高速で動かす」。片麻痺上肢への介入は局所だけでなく、姿勢・体幹・両上肢活動を含めて設計する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「感覚・認知・疼痛は評価しない」に対応する説明で、判断対象「運動回復段階の変化を把握し、他の機能・ADL評価と合わせて治療計画を修正する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「stageが同じなら生活機能も必ず同じと考える」に対応する説明で、判断対象「運動回復段階の変化を把握し、他の機能・ADL評価と合わせて治療計画を修正する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「運動回復段階の変化を把握し、他の機能・ADL評価と合わせて治療計画を修正する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「stageだけで退院可否を決める」に対応する説明で、判断対象「運動回復段階の変化を把握し、他の機能・ADL評価と合わせて治療計画を修正する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。stageは運動回復の一側面であり、他の評価と統合する。判断対象は「運動回復段階の変化を把握し、他の機能・ADL評価と合わせて治療計画を修正する」。Brunnstrom stageは便利な共通言語だが、治療効果を単独で代表する尺度ではない。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q011

脳血管障害・高次脳機能障害 > 上肢・手指機能への介入 | 標準

脳卒中後にコップを持って口へ運ぶ動作の再獲得を目指す。最も適切な練習はどれか。この論点で、選択肢「成功できない重さから開始する」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 使用機会を減らす。
- イ. 成功可能な難易度へ段階づける。
- ウ. 目標作業に関連した反復練習は運動学習と実用性を高める。
- エ. 目標上肢作業との特異性が低い。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「上肢を使わず介助だけ増やす」に対応する説明で、判断対象「成功できない重さから開始する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「成功できない重さから開始する」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「実際のコップ操作を難易度調整しながら反復する」に対応する説明で、判断対象「成功できない重さから開始する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「関係のない下肢運動だけを行う」に対応する説明で、判断対象「成功できない重さから開始する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。成功可能な難易度へ段階づける。判断対象は「成功できない重さから開始する」。課題特異的練習では実生活に必要な運動を反復し、速度・重さ・到達距離などを段階づける。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q012

脳血管障害・高次脳機能障害 > 上肢・手指機能への介入 | 標準

Constraint-Induced Movement Therapy CIMT の基本的考え方として正しいのはどれか。この論点で、選択肢「非麻痺側上肢の使用を制限し、麻痺側上肢の集中的な使用を促す」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 痙縮増強を目的としない。
- イ. 麻痺側を使う治療である。
- ウ. CIMTは学習性不使用を減らし、麻痺側上肢の使用機会を増やすことを目的とする。
- エ. 活動量を増やす介入である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「痙縮を強めることを目的とする」に対応する説明で、判断対象「非麻痺側上肢の使用を制限し、麻痺側上肢の集中的な使用を促す」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「麻痺側上肢を固定して使わせない」に対応する説明で、判断対象「非麻痺側上肢の使用を制限し、麻痺側上肢の集中的な使用を促す」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「非麻痺側上肢の使用を制限し、麻痺側上肢の集中的な使用を促す」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「両上肢を完全に安静にする」に対応する説明で、判断対象「非麻痺側上肢の使用を制限し、麻痺側上肢の集中的な使用を促す」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。CIMTは学習性不使用を減らし、麻痺側上肢の使用機会を増やすことを目的とする。判断対象は「非麻痺側上肢の使用を制限し、麻痺側上肢の集中的な使用を促す」。CIMTは全ての患者へ同じ方法で行うのではなく、随意運動能力や安全性、生活目標を考慮して適応を判断する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q013

脳血管障害・高次脳機能障害 > 上肢・手指機能への介入 | 標準

手関節背屈が弱い脳卒中患者に機能的電気刺激 FES を用いる目的として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「関節を永久固定する」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 固定具ではない。
- イ. 治療的介入として用いる。
- ウ. FESは目的筋の収縮を補助し、実際の課題と組み合わせて使用できる。
- エ. むしろ感覚入力も生じる。

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「関節を永久固定する」が誤答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「筋力評価だけを行う」に対応する説明で、判断対象「関節を永久固定する」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「課題中の筋収縮を補助し、随意運動と機能的動作を結び付ける」に対応する説明で、判断対象「関節を永久固定する」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「感覚入力を完全に遮断する」に対応する説明で、判断対象「関節を永久固定する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。固定具ではない。判断対象は「関節を永久固定する」。電気刺激は皮膚状態、感覚、禁忌、収縮の質を確認しながら課題遂行へ統合する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q014

脳血管障害・高次脳機能障害 > 上肢・手指機能への介入 | 標準

鏡療法 mirror therapy の説明として正しいのはどれか。この論点で、選択肢「非麻痺側の動きを鏡像として麻痺側が動いているように視覚提示する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 麻痺側運動を促す治療の一つである。
- イ. 鏡像による視覚フィードバックを利用して運動イメージや運動回復を促す。
- ウ. 単なる遮蔽ではなく鏡像提示が重要である。
- エ. 固定法ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

- ア：誤り。これは別の選択肢「上肢使用を禁止する」に対応する説明で、判断対象「非麻痺側の動きを鏡像として麻痺側が動いているように視覚提示する」の直接の根拠ではない。
- イ：正しい。これは判断対象「非麻痺側の動きを鏡像として麻痺側が動いているように視覚提示する」が正答となる理由を直接説明している。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「麻痺側を見えないようにすることだけが目的である」に対応する説明で、判断対象「非麻痺側の動きを鏡像として麻痺側が動いているように視覚提示する」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「関節固定を目的とする」に対応する説明で、判断対象「非麻痺側の動きを鏡像として麻痺側が動いているように視覚提示する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。鏡像による視覚フィードバックを利用して運動イメージや運動回復を促す。判断対象は「非麻痺側の動きを鏡像として麻痺側が動いているように視覚提示する」。鏡療法では課題理解、視覚認知、注意状態などを考慮して適用する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q015

脳血管障害・高次脳機能障害 > 上肢・手指機能への介入 | 応用

片麻痺手に浮腫と軽度疼痛があり、指の自動運動も少ない。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「手を長時間下垂させる」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 浮腫管理では循環を妨げない支持と運動、皮膚・疼痛の観察を行う。
- イ. 下垂は浮腫を増悪させることがある。
- ウ. 強い刺激は疼痛や組織損傷を招くことがある。
- エ. 必要以上の固定は拘縮や不使用につながる。

OT05 Q016

脳血管障害・高次脳機能障害 > 高次脳機能障害 | 標準

左半側空間無視の患者が食事で左側のおかずを残す。最も適切な介入はどれか。この論点で、選択肢「左側へ視線を向ける手掛かりを設定し、食卓全体を系統的に探索する練習を行う」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 残存能力を生かして自立を促す。
- イ. 視覚探索訓練や左側へのアンカーは無視側への注意配分を促す。
- ウ. 症状を強化する方向となる。
- エ. 左側探索の機会を失う。

答え・4肢解説

正答：イ

- ア：誤り。これは別の選択肢「上肢の支持・挙上、無痛範囲の自動・他動運動、皮膚観察などを組み合わせる」に対応する説明で、判断対象「手を長時間下垂させる」の直接の根拠ではない。
- イ：正しい。これは判断対象「手を長時間下垂させる」が誤答となる理由を直接説明している。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「痛みを無視して強く揉む」に対応する説明で、判断対象「手を長時間下垂させる」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「指を完全固定し続ける」に対応する説明で、判断対象「手を長時間下垂させる」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。下垂は浮腫を増悪させることがある。判断対象は「手を長時間下垂させる」。片麻痺手の治療では浮腫、疼痛、感覚、可動域、随意運動を同時に評価し、二次障害を予防する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

- ア：誤り。これは別の選択肢「食事動作を全面介助に固定する」に対応する説明で、判断対象「左側へ視線を向ける手掛かりを設定し、食卓全体を系統的に探索する練習を行う」の直接の根拠ではない。
- イ：正しい。これは判断対象「左側へ視線を向ける手掛かりを設定し、食卓全体を系統的に探索する練習を行う」が正答となる理由を直接説明している。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「右側だけを見るよう指示する」に対応する説明で、判断対象「左側へ視線を向ける手掛かりを設定し、食卓全体を系統的に探索する練習を行う」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「左側の食器を全て撤去する」に対応する説明で、判断対象「左側へ視線を向ける手掛かりを設定し、食卓全体を系統的に探索する練習を行う」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。視覚探索訓練や左側へのアンカーは無視側への注意配分を促す。判断対象は「左側へ視線を向ける手掛かりを設定し、食卓全体を系統的に探索する練習を行う」。半側空間無視への介入は机上課題だけでなく食事、更衣、移動など実生活面でを行う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q017

脳血管障害・高次脳機能障害 > 高次脳機能障害 | 標準

注意障害のある患者が騒がしい訓練室で課題を途中で止めてしまう。最も適切なのはどれか。
この論点で、選択肢「同時に複数課題を与える」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 注意負荷を調整して成功しやすい条件から段階づける。
- イ. 過剰刺激は注意維持を困難にし得る。
- ウ. 二重課題はより高い注意機能を要求する。
- エ. 成績に応じて課題を調整する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「刺激の少ない環境で短い課題から開始し、徐々に注意負荷を上げる」に対応する説明で、判断対象「同時に複数課題を与える」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「刺激をさらに増やす」に対応する説明で、判断対象「同時に複数課題を与える」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「同時に複数課題を与える」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「失敗しても課題条件を変えない」に対応する説明で、判断対象「同時に複数課題を与える」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。二重課題はより高い注意機能を要求する。判断対象は「同時に複数課題を与える」。注意訓練では持続・選択・転換・分配など、どの注意機能が障害されているかを明確にする。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q018

脳血管障害・高次脳機能障害 > 高次脳機能障害 | 基礎

新しい予定を忘れやすい記憶障害患者への支援として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「スマートフォンの予定表やアラームを利用する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 一度の口頭提示では保持が難しいことがある。
- イ. 外的記憶補助具は日常生活での予定管理を補う。
- ウ. 参加を維持できる方法を検討する。
- エ. 代償手段を活用する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「予定を口頭で一度だけ伝える」に対応する説明で、判断対象「スマートフォンの予定表やアラームを利用する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「スマートフォンの予定表やアラームを利用する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「記憶できないため予定参加を全て中止する」に対応する説明で、判断対象「スマートフォンの予定表やアラームを利用する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「メモを禁止する」に対応する説明で、判断対象「スマートフォンの予定表やアラームを利用する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。外的記憶補助具は日常生活での予定管理を補う。判断対象は「スマートフォンの予定表やアラームを利用する」。記憶障害では機能訓練だけでなく、手帳・電子機器・環境手掛かりなど代償戦略を実生活へ定着させる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q019

脳血管障害・高次脳機能障害 > 高次脳機能障害 | 標準

料理の途中で次に何をすべきか分からなくなる遂行機能障害患者への支援として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「工程を増やして複雑にする」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 遂行機能障害として支援する。
- イ. 課題複雑性を高める。
- ウ. 手順の外在化は計画・モニタリングを補助する。
- エ. 外的手掛かりを活用する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「失敗の理由を本人の努力不足だけとする」に対応する説明で、判断対象「工程を増やして複雑にする」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「工程を増やして複雑にする」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「工程を見える化したチェックリストを用い、一工程ずつ確認する」に対応する説明で、判断対象「工程を増やして複雑にする」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「手順表を隠す」に対応する説明で、判断対象「工程を増やして複雑にする」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。課題複雑性を高める。判断対象は「工程を増やして複雑にする」。遂行機能障害では目標設定、計画、実行、確認の各段階を構造化する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q020

脳血管障害・高次脳機能障害 > 高次脳機能障害 | 標準

観念運動失行があり、口頭命令では歯磨き動作がうまくできない。最も適切な介入はどれか。この論点で、選択肢「実物の歯ブラシと洗面場面を用い、視覚・触覚的手掛かりを加える」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 実用場面で反復する。
- イ. 道具が重要な手掛かりとなる。
- ウ. 失行は筋力低下だけでは説明できない。
- エ. 実物・環境文脈・模倣などの手掛かりで動作が改善することがある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「動作を行う機会をなくす」に対応する説明で、判断対象「実物の歯ブラシと洗面場面を用い、視覚・触覚的手掛かりを加える」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「道具を全て隠す」に対応する説明で、判断対象「実物の歯ブラシと洗面場面を用い、視覚・触覚的手掛かりを加える」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「筋力低下と考えると最大抵抗運動だけを行う」に対応する説明で、判断対象「実物の歯ブラシと洗面場面を用い、視覚・触覚的手掛かりを加える」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「実物の歯ブラシと洗面場面を用い、視覚・触覚的手掛かりを加える」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。実物・環境文脈・模倣などの手掛かりで動作が改善することがある。判断対象は「実物の歯ブラシと洗面場面を用い、視覚・触覚的手掛かりを加える」。失行への介入では誤りの型を観察し、道具・模倣・言語指示のどの条件が有効かを探る。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q021

脳血管障害・高次脳機能障害 > 高次脳機能障害 | 基礎

失語症患者へ作業手順を説明する方法として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「理解できないと判断して本人へ話しかけない」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 処理負荷が高い。
- イ. 本人の理解と意思を尊重する。
- ウ. 本人とのコミュニケーションを継続する。
- エ. 言語負荷を調整し、視覚的・非言語的手掛かりを併用する。

OT05 Q022

脳血管障害・高次脳機能障害 > 高次脳機能障害 | 応用

前頭葉損傷後、集団場面で他者の発言を遮って話し続ける。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「行動が起こる状況を分析し、順番を示す視覚手掛かりや明確なルールを設定する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. パターン把握には記録が有用である。
- イ. 社会的行動障害では誘因と結果を分析し、環境・ルール・フィードバックを構造化する。
- ウ. 支援付き参加を検討する。
- エ. 脳損傷後の症状として理解する必要がある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「長い説明を一度に早口で行う」に対応する説明で、判断対象「理解できないと判断して本人へ話しかけない」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「家族だけに説明する」に対応する説明で、判断対象「理解できないと判断して本人へ話しかけない」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「理解できないと判断して本人へ話しかけない」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「短い文、実物やジェスチャーを併用し、理解を確認しながら進める」に対応する説明で、判断対象「理解できないと判断して本人へ話しかけない」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。本人とのコミュニケーションを継続する。判断対象は「理解できないと判断して本人へ話しかけない」。失語症では理解・表出の特性に合わせ、会話速度、文の長さ、選択肢、描画やジェスチャーを調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「行動記録を取らない」に対応する説明で、判断対象「行動が起こる状況を分析し、順番を示す視覚手掛かりや明確なルールを設定する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「行動が起こる状況を分析し、順番を示す視覚手掛かりや明確なルールを設定する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「集団参加を永久に禁止する」に対応する説明で、判断対象「行動が起こる状況を分析し、順番を示す視覚手掛かりや明確なルールを設定する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「人格の問題として叱責だけ行う」に対応する説明で、判断対象「行動が起こる状況を分析し、順番を示す視覚手掛かりや明確なルールを設定する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。社会的行動障害では誘因と結果を分析し、環境・ルール・フィードバックを構造化する。判断対象は「行動が起こる状況を分析し、順番を示す視覚手掛かりや明確なルールを設定する」。社会的行動障害では本人への教育だけでなく、周囲の対応を一貫させることも重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q023

脳血管障害・高次脳機能障害 > 高次脳機能障害 | 応用

脳損傷後に病識が乏しく『何でも一人で行える』と主張するが、実際には調理で危険な失敗が多い。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「失敗を本人に知らせない」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 重大事故を防ぐ安全管理が必要である。
- イ. 対立的対応は治療関係を損ないやすい。
- ウ. 適切なフィードバックが必要である。
- エ. 具体的な遂行経験と客観的な振り返りは自己認識を促す。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「危険でも単独で調理させる」に対応する説明で、判断対象「失敗を本人に知らせない」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「本人の主張を否定して叱るだけにする」に対応する説明で、判断対象「失敗を本人に知らせない」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「失敗を本人に知らせない」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「安全を確保した実課題で遂行結果を本人と振り返り、具体的な差をフィードバックする」に対応する説明で、判断対象「失敗を本人に知らせない」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。適切なフィードバックが必要である。判断対象は「失敗を本人に知らせない」。病識低下では自己評価と実際の遂行の差を、本人の尊厳を保ちながら具体的に共有する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q024

脳血管障害・高次脳機能障害 > 生活動作への応用 | 基礎

片麻痺患者の上衣更衣で一般に用いられる方法として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「着衣では麻痺側上肢から袖を通す」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 着衣では動かしにくい麻痺側から袖を通すと操作しやすい。
- イ. 麻痺側上肢も保護しながら衣服内へ位置づける。
- ウ. 本人の目標に応じて練習する。
- エ. 非麻痺側を先に通すと麻痺側袖を通しにくくなることもある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「着衣では麻痺側上肢から袖を通す」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「麻痺側上肢を衣服に通さない」に対応する説明で、判断対象「着衣では麻痺側上肢から袖を通す」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「更衣練習は行わない」に対応する説明で、判断対象「着衣では麻痺側上肢から袖を通す」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「着衣では必ず非麻痺側から袖を通す」に対応する説明で、判断対象「着衣では麻痺側上肢から袖を通す」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。着衣では動かしにくい麻痺側から袖を通すと操作しやすい。判断対象は「着衣では麻痺側上肢から袖を通す」。片麻痺の更衣では衣服の選択、姿勢、手順、注意障害や失行の有無も考慮する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q025

脳血管障害・高次脳機能障害 > 生活動作への応用 | 基礎

片麻痺患者が食事中に麻痺側上肢を机から落としやすく、体幹も傾く。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「麻痺側上肢を下垂させる」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 到達負荷が増える。
- イ. 肩牽引や浮腫につながる可能性がある。
- ウ. 姿勢制御を難しくする。
- エ. 上肢支持と座位安定は食事動作の効率と安全性を高める。

OT05 Q026

脳血管障害・高次脳機能障害 > 生活動作への応用 | 基礎

片麻痺患者が浴槽またぎでふらつく。最も適切な対応はどれか。この論点で、選択肢「浴槽手すりやバスボードなどを検討し、実際の浴室条件に近い環境で練習する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 転倒リスクを管理する必要がある。
- イ. 自宅条件が異なる可能性がある。
- ウ. 安全性を低下させる。
- エ. 入浴は環境依存性が高く、福祉用具・住宅環境を含めて評価する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「食器をさらに遠くへ置く」に対応する説明で、判断対象「麻痺側上肢を下垂させる」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「麻痺側上肢を下垂させる」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「椅子を不安定にする」に対応する説明で、判断対象「麻痺側上肢を下垂させる」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「麻痺側上肢を机上で支持し、安定した座位と食器配置を調整する」に対応する説明で、判断対象「麻痺側上肢を下垂させる」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。肩牽引や浮腫につながる可能性がある。判断対象は「麻痺側上肢を下垂させる」。ADL訓練は身体機能だけでなく姿勢・道具・配置・手順を調整して成功を作る。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「ふらつきを無視して単独入浴させる」に対応する説明で、判断対象「浴槽手すりやバスボードなどを検討し、実際の浴室条件に近い環境で練習する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「自宅浴室を確認せず病棟動作だけで判断する」に対応する説明で、判断対象「浴槽手すりやバスボードなどを検討し、実際の浴室条件に近い環境で練習する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「滑りやすい床で練習する」に対応する説明で、判断対象「浴槽手すりやバスボードなどを検討し、実際の浴室条件に近い環境で練習する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「浴槽手すりやバスボードなどを検討し、実際の浴室条件に近い環境で練習する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。入浴は環境依存性が高く、福祉用具・住宅環境を含めて評価する。判断対象は「浴槽手すりやバスボードなどを検討し、実際の浴室条件に近い環境で練習する」。退院前には浴槽高さ、手すり位置、床状態、介助者の有無などを具体的に確認する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q027

脳血管障害・高次脳機能障害 > 生活動作への応用 | 応用

片麻痺と軽度遂行機能障害がある患者が調理再開を希望している。最初の練習として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「複数料理を時間制限付きで同時調理する」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 初期課題として認知負荷が高い。
- イ. 本人が担える工程を増やす支援を行う。
- ウ. 安全性評価が必要である。
- エ. 運動・認知双方の負荷を調整し、成功可能な課題から段階づける。

OT05 Q028

脳血管障害・高次脳機能障害 > リスク管理 | 標準

脳卒中患者の作業療法中に、急に麻痺が増悪し言葉が出にくくなった。最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「直ちに活動を中止して神経症状を確認し、医療スタッフへ緊急報告する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 新規・増悪する局所神経症状は再発や病態悪化の可能性があり緊急評価が必要である。
- イ. 活動継続より安全確保を優先する。
- ウ. 迅速な評価が必要である。
- エ. 重篤な変化を見逃す可能性がある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「複数料理を時間制限付きで同時調理する」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「家族が全工程を代行する」に対応する説明で、判断対象「複数料理を時間制限付きで同時調理する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「危険器具を最初から全て使用する」に対応する説明で、判断対象「複数料理を時間制限付きで同時調理する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「工程の少ない一品料理から始め、片手操作と手順表を組み合わせる」に対応する説明で、判断対象「複数料理を時間制限付きで同時調理する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。初期課題として認知負荷が高い。判断対象は「複数料理を時間制限付きで同時調理する」。IADL訓練では実生活の役割を目標に、身体機能・高次脳機能・環境・道具を統合して介入する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「直ちに活動を中止して神経症状を確認し、医療スタッフへ緊急報告する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「上肢訓練だけ続ける」に対応する説明で、判断対象「直ちに活動を中止して神経症状を確認し、医療スタッフへ緊急報告する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「翌日まで様子を見る」に対応する説明で、判断対象「直ちに活動を中止して神経症状を確認し、医療スタッフへ緊急報告する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「疲労と決めつけて続ける」に対応する説明で、判断対象「直ちに活動を中止して神経症状を確認し、医療スタッフへ緊急報告する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。新規・増悪する局所神経症状は再発や病態悪化の可能性があり緊急評価が必要である。判断対象は「直ちに活動を中止して神経症状を確認し、医療スタッフへ緊急報告する」。脳卒中リハビリテーションでは再発徴候、血圧変動、意識変化、胸痛などの急変を見逃さない。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q029

脳血管障害・高次脳機能障害 > リスク管理 | 標準

脳卒中後の食事中に湿性嘔声と繰り返す咳が出現した。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「必ず問題ないと判断する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 症状を評価する必要がある。
- イ. 誤嚥リスクを高める可能性がある。
- ウ. 液体が安全とは限らない。
- エ. 湿性嘔声や咳は嚥下障害・誤嚥を疑う所見となり、安全確認が必要である。

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「必ず問題ないと判断する」が誤答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「咳を無視して食事速度を上げる」に対応する説明で、判断対象「必ず問題ないと判断する」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「水分を大量に流し込む」に対応する説明で、判断対象「必ず問題ないと判断する」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「摂食を中止または一時中断し、嚥下状態を評価できるスタッフへ報告する」に対応する説明で、判断対象「必ず問題ないと判断する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。症状を評価する必要がある。判断対象は「必ず問題ないと判断する」。食事動作への介入では姿勢・上肢操作だけでなく、嚥下安全性と食形態の指示を確認する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q030

脳血管障害・高次脳機能障害 > リスク管理 | 応用

片麻痺患者が『一人でトイレへ行きたい』と希望するが、夜間にふらつきが強い。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「夜間環境、移乗能力、注意、補助具を評価し、必要最小限の支援方法を本人と検討する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 安全性評価が必要である。
- イ. 転倒歴は重要なリスク情報である。
- ウ. 能力改善や環境調整の可能性を検討する。
- エ. 自立支援と安全の双方を考え、状況に応じた支援量・環境調整を決める。

答え・4肢解説

正答：エ

- ア：誤り。これは別の選択肢「本人の希望だけで単独歩行を許可する」に対応する説明で、判断対象「夜間環境、移乗能力、注意、補助具を評価し、必要最小限の支援方法を本人と検討する」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「転倒歴を確認しない」に対応する説明で、判断対象「夜間環境、移乗能力、注意、補助具を評価し、必要最小限の支援方法を本人と検討する」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「危険なので永久に全介助とする」に対応する説明で、判断対象「夜間環境、移乗能力、注意、補助具を評価し、必要最小限の支援方法を本人と検討する」の直接の根拠ではない。
- エ：正しい。これは判断対象「夜間環境、移乗能力、注意、補助具を評価し、必要最小限の支援方法を本人と検討する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。自立支援と安全の双方を考え、状況に応じた支援量・環境調整を決める。判断対象は「夜間環境、移乗能力、注意、補助具を評価し、必要最小限の支援方法を本人と検討する」。リスク管理は活動を禁止することではなく、本人が許容可能なリスクで目標を実現できる条件を整えることである。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q031

脊髄損傷・神経筋疾患 > 頸髄・脊髄損傷 | 標準

C6レベルの頸髄損傷で残存が期待される機能として重要なのはどれか。この論点で、選択肢「指の強い外転」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 頸髄損傷では下肢運動は障害される。
- イ. 強い手指屈曲はC8機能と関連する。
- ウ. 手指外転は主にT1レベルの機能である。
- エ. C6では橈側手根伸筋などによる手関節背屈が重要な残存機能となる。

OT05 Q032

脊髄損傷・神経筋疾患 > 頸髄・脊髄損傷 | 標準

C6頸髄損傷患者で利用されるtenodesis graspの説明として正しいのはどれか。この論点で、選択肢「手関節背屈に伴う指屈筋の受動張力で把持を得る」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 肘屈曲だけではtenodesis graspを形成しない。
- イ. 手関節背屈時に長指屈筋が受動的に張ることで指屈曲を利用する。
- ウ. 手内在筋が正常であることを前提としない。
- エ. 肩挙上とは直接関係しない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「下肢随意運動」に対応する説明で、判断対象「指の強い外転」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「完全な手指屈曲」に対応する説明で、判断対象「指の強い外転」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「指の強い外転」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「手関節背屈」に対応する説明で、判断対象「指の強い外転」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。手指外転は主にT1レベルの機能である。判断対象は「指の強い外転」。C6では手関節背屈を利用したtenodesis graspなど、残存機能を作業へ応用することが重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「肘屈曲だけで指が能動的に握れる」に対応する説明で、判断対象「手関節背屈に伴う指屈筋の受動張力で把持を得る」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「手関節背屈に伴う指屈筋の受動張力で把持を得る」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「手指筋が正常筋力で収縮して把持する」に対応する説明で、判断対象「手関節背屈に伴う指屈筋の受動張力で把持を得る」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「肩挙上で指伸展を得る」に対応する説明で、判断対象「手関節背屈に伴う指屈筋の受動張力で把持を得る」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。手関節背屈時に長指屈筋が受動的に張ることで指屈曲を利用する。判断対象は「手関節背屈に伴う指屈筋の受動張力で把持を得る」。tenodesis graspを活用する場合、指屈筋を過度に伸張して受動張力を失わないように管理する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q033

脊髄損傷・神経筋疾患 > 頸髄・脊髄損傷 | 標準

C7レベルの頸髄損傷で、移乗やプッシュアップに特に重要となる残存筋はどれか。この論点で、選択肢「前脛骨筋」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. C7では肘伸展が可能となり、ベッド上動作や移乗の自立度向上に重要である。
- イ. 骨間筋は主にT1レベルに関連する。
- ウ. 前脛骨筋も下肢筋である。
- エ. 大腿四頭筋は下肢筋である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「上腕三頭筋」に対応する説明で、判断対象「前脛骨筋」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「骨間筋」に対応する説明で、判断対象「前脛骨筋」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「前脛骨筋」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「大腿四頭筋」に対応する説明で、判断対象「前脛骨筋」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。前脛骨筋も下肢筋である。判断対象は「前脛骨筋」。神経学的レベルの理解は、可能なADLと必要な自助具・介助量を予測する基礎となる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q034

脊髄損傷・神経筋疾患 > 頸髄・脊髄損傷 | 応用

T4レベル脊髄損傷患者が突然激しい頭痛を訴え、血圧上昇と顔面発汗がみられた。膀胱充満も疑われる。最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「活動を中止し、上体を起こして原因刺激を確認しながら速やかに医療対応につなげる」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 高位脊髄損傷の自律神経過反射は緊急病態で、血圧を下げる姿勢と原因刺激の除去が重要である。
- イ. 運動継続は危険である。
- ウ. 脳出血など重大合併症の危険がある。
- エ. 仰臥位で下肢挙上すると血圧をさらに上げる可能性がある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「活動を中止し、上体を起こして原因刺激を確認しながら速やかに医療対応につなげる」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「運動負荷を上げる」に対応する説明で、判断対象「活動を中止し、上体を起こして原因刺激を確認しながら速やかに医療対応につなげる」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「症状を無視して訓練を続ける」に対応する説明で、判断対象「活動を中止し、上体を起こして原因刺激を確認しながら速やかに医療対応につなげる」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「仰臥位にして足を高くする」に対応する説明で、判断対象「活動を中止し、上体を起こして原因刺激を確認しながら速やかに医療対応につなげる」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。高位脊髄損傷の自律神経過反射は緊急病態で、血圧を下げる姿勢と原因刺激の除去が重要である。判断対象は「活動を中止し、上体を起こして原因刺激を確認しながら速やかに医療対応につなげる」。自律神経過反射では膀胱・腸・皮膚刺激など原因を探し、医療チームと連携して迅速に対応する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q035

脊髄損傷・神経筋疾患 > 頸髄・脊髄損傷 | 標準

頸髄損傷患者が初回車椅子移乗でめまいと血圧低下を示した。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「水分摂取だけで必ず改善すると判断する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 失神・転倒リスクがある。
- イ. 自律神経機能低下により起立性低血圧を生じやすく、段階的離床が有効である。
- ウ. 水分だけで全例が改善するわけではない。
- エ. さらに負荷が高い。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「症状を無視して長時間座位を継続する」に対応する説明で、判断対象「水分摂取だけで必ず改善すると判断する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「リクライニングやティルトを利用し、症状と血圧を確認しながら段階的に座位耐性を高める」に対応する説明で、判断対象「水分摂取だけで必ず改善すると判断する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「水分摂取だけで必ず改善すると判断する」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「直ちに立位訓練へ進む」に対応する説明で、判断対象「水分摂取だけで必ず改善すると判断する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。水分だけで全例が改善するわけではない。判断対象は「水分摂取だけで必ず改善すると判断する」。必要に応じて弾性ストッキングや腹帯等も検討し、循環反応に合わせて離床を進める。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q036

脊髄損傷・神経筋疾患 > 頸髄・脊髄損傷 | 標準

脊髄損傷患者の車椅子生活で褥瘡予防として最も重要なのはどれか。この論点で、選択肢「定期的な除圧、皮膚観察、適切なクッション調整を行う」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 発赤部は圧を除いて評価する。
- イ. 感覚障害があるため圧迫を自覚しにくく、除圧と皮膚チェックが重要である。
- ウ. 感覚低下はむしろ皮膚損傷リスクを高める。
- エ. 持続圧迫を避ける必要がある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「発赤部へさらに圧をかける」に対応する説明で、判断対象「定期的な除圧、皮膚観察、適切なクッション調整を行う」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「定期的な除圧、皮膚観察、適切なクッション調整を行う」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「感覚がないため皮膚確認は不要とする」に対応する説明で、判断対象「定期的な除圧、皮膚観察、適切なクッション調整を行う」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「同一姿勢を長時間保つ」に対応する説明で、判断対象「定期的な除圧、皮膚観察、適切なクッション調整を行う」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。感覚障害があるため圧迫を自覚しにくく、除圧と皮膚チェックが重要である。判断対象は「定期的な除圧、皮膚観察、適切なクッション調整を行う」。褥瘡予防は姿勢変換だけでなく、座位姿勢、クッション、湿潤、栄養、介助方法を総合して行う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q037

脊髄損傷・神経筋疾患 > 頸髄・脊髄損傷 | 応用

車椅子駆動と移乗を長年行っている対麻痺患者が肩痛を訴える。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「肩痛を無視して移乗回数を増やす」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 疼痛悪化の可能性がある。
- イ. 車椅子使用者では肩が荷重関節として使われるため過用障害予防が重要である。
- ウ. 車軸位置や座面設定は駆動負荷へ影響する。
- エ. 生活自立を損なう。

OT05 Q038

脊髄損傷・神経筋疾患 > 頸髄・脊髄損傷 | 標準

脊髄損傷患者の地域生活支援で排泄管理について最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「膀胱・腸管理の方法と時間を日課へ組み込み、外出や就労と両立できるよう調整する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 排泄管理はADL・IADL・社会参加の時間構造へ大きく影響する。
- イ. 地域生活上の重要な自己管理課題である。
- ウ. 本人の確立した方法や医学的指示を確認する。
- エ. 管理方法を調整して参加を支える。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「肩痛を無視して移乗回数を増やす」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「駆動・移乗方法、車椅子設定、肩周囲筋機能を評価し過用負荷を減らす」に対応する説明で、判断対象「肩痛を無視して移乗回数を増やす」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「車椅子の適合は確認しない」に対応する説明で、判断対象「肩痛を無視して移乗回数を増やす」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「上肢を完全に使わない」に対応する説明で、判断対象「肩痛を無視して移乗回数を増やす」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。疼痛悪化の可能性がある。判断対象は「肩痛を無視して移乗回数を増やす」。脊髄損傷の長期支援では、現在の自立度だけでなく上肢を将来も使い続けられる負荷管理を考える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「膀胱・腸管理の方法と時間を日課へ組み込み、外出や就労と両立できるよう調整する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「排泄は作業療法の生活支援と無関係とする」に対応する説明で、判断対象「膀胱・腸管理の方法と時間を日課へ組み込み、外出や就労と両立できるよう調整する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「本人の方法を確認しない」に対応する説明で、判断対象「膀胱・腸管理の方法と時間を日課へ組み込み、外出や就労と両立できるよう調整する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「外出を避けるよう勧める」に対応する説明で、判断対象「膀胱・腸管理の方法と時間を日課へ組み込み、外出や就労と両立できるよう調整する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。排泄管理はADL・IADL・社会参加の時間構造へ大きく影響する。判断対象は「膀胱・腸管理の方法と時間を日課へ組み込み、外出や就労と両立できるよう調整する」。脊髄損傷の作業療法では排泄、皮膚、移動、車椅子、住環境を生活全体として統合する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q039

脊髄損傷・神経筋疾患 > Parkinson病・SCD | 標準

Parkinson病患者が狭い場所で足がすくみ、歩き始められない。最も適切な工夫はどれか。この論点で、選択肢「急かして後ろから押す」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 視覚・聴覚的cueingは動作開始や歩幅改善に役立つことがある。
- イ. 視覚情報を失い危険である。
- ウ. 転倒リスクを高める。
- エ. 小刻み歩行を助長する可能性がある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「床の線や一定のリズムなど外的手掛かりを利用する」に対応する説明で、判断対象「急かして後ろから押す」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「目を閉じて歩く」に対応する説明で、判断対象「急かして後ろから押す」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「急かして後ろから押す」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「歩幅をさらに小さくする」に対応する説明で、判断対象「急かして後ろから押す」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。転倒リスクを高める。判断対象は「急かして後ろから押す」。Parkinson病では外的手掛かり、動作の分解、十分な時間確保をADLへ応用する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q040

脊髄損傷・神経筋疾患 > Parkinson病・SCD | 標準

Parkinson病患者が服薬後は動きやすいが、次の服薬前に動作が著しく遅くなる。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「動きやすい時間帯に重要なADLや外出を配置できるよう生活時間を調整する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 困難を増やす可能性がある。
- イ. 薬剤調整は医師と連携する。
- ウ. on-off変動を生活スケジュールへ反映すると作業遂行を安定させやすい。
- エ. 時間帯は重要な評価情報である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「off期に最も難しい課題だけを行う」に対応する説明で、判断対象「動きやすい時間帯に重要なADLや外出を配置できるよう生活時間を調整する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「服薬を自己判断で増減するよう勧める」に対応する説明で、判断対象「動きやすい時間帯に重要なADLや外出を配置できるよう生活時間を調整する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「動きやすい時間帯に重要なADLや外出を配置できるよう生活時間を調整する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「時間帯差を無視する」に対応する説明で、判断対象「動きやすい時間帯に重要なADLや外出を配置できるよう生活時間を調整する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。on-off変動を生活スケジュールへ反映すると作業遂行を安定させやすい。判断対象は「動きやすい時間帯に重要なADLや外出を配置できるよう生活時間を調整する」。薬効変動の記録は作業療法の課題設定だけでなく医療チームとの情報共有にも役立つ。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q041

脊髄損傷・神経筋疾患 > Parkinson病・SCD | 標準

脊髄小脳変性症患者が方向転換時に大きくふらつく。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「転倒歴を確認しない」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 失調では速度・環境要求を調整し、安定した戦略を学習する。
- イ. 制御困難が増える。
- ウ. 安全計画に必要な情報である。
- エ. 転倒リスクが高まる。

OT05 Q042

脊髄損傷・神経筋疾患 > Parkinson病・SCD | 応用

Parkinson病とSCDの作業療法を比較した説明として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「Parkinson病では動作開始・振幅へのcueing、SCDでは失調に対する安定性・速度調整が重要となる」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 薬効変動や疲労を含む生活時間が重要である。
- イ. 両疾患とも運動制御・ADL・環境面を含める。
- ウ. 失調性歩行ではバランス評価が重要である。
- エ. 主な運動障害の性質に応じて課題設定を変える。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「支持物の配置や歩行経路を単純化し、ゆっくりした方向転換を練習する」に対応する説明で、判断対象「転倒歴を確認しない」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「方向転換を高速で反復させる」に対応する説明で、判断対象「転倒歴を確認しない」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「転倒歴を確認しない」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「狭い場所に障害物を増やす」に対応する説明で、判断対象「転倒歴を確認しない」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。安全計画に必要な情報である。判断対象は「転倒歴を確認しない」。SCDでは失調そのものの改善だけでなく、代償方法と環境適応により生活の安全性を高める。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「Parkinson病では生活リズムを考慮しない」に対応する説明で、判断対象「Parkinson病では動作開始・振幅へのcueing、SCDでは失調に対する安定性・速度調整が重要となる」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「両者とも筋力増強だけで十分である」に対応する説明で、判断対象「Parkinson病では動作開始・振幅へのcueing、SCDでは失調に対する安定性・速度調整が重要となる」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「SCDではバランス評価は不要である」に対応する説明で、判断対象「Parkinson病では動作開始・振幅へのcueing、SCDでは失調に対する安定性・速度調整が重要となる」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「Parkinson病では動作開始・振幅へのcueing、SCDでは失調に対する安定性・速度調整が重要となる」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。主な運動障害の性質に応じて課題設定を変える。判断対象は「Parkinson病では動作開始・振幅へのcueing、SCDでは失調に対する安定性・速度調整が重要となる」。疾患名だけで共通プログラムを当てはめず、個々の運動障害と作業課題から介入を選択する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q043

脊髄損傷・神経筋疾患 > ALS・MS | 標準

ALS患者が更衣後に強い疲労を残し、その後の活動ができなくなる。最も適切なのはどれか。
この論点で、選択肢「自助具導入を最終末期まで避ける」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 過用疲労に配慮する。
- イ. 必要な時期に早めに代償手段を導入する。
- ウ. ALSでは限られた筋力とエネルギーを重要な生活活動へ配分する。
- エ. 疾患による易疲労性として評価する。

OT05 Q044

脊髄損傷・神経筋疾患 > ALS・MS | 応用

ALS患者で構音障害が徐々に進行している。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「発話が可能なうちから文字盤やICT機器など代替コミュニケーション手段を検討する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 本人の意思表出を保障する。
- イ. 参加と意思決定に不可欠である。
- ウ. 導入が遅れると学習・機器選択が難しくなることがある。
- エ. 進行性疾患では操作能力が残る時期からAACを選定・練習する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「疲労しても最大抵抗運動を追加する」に対応する説明で、判断対象「自助具導入を最終末期まで避ける」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「自助具導入を最終末期まで避ける」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「着座更衣や自助具、休息を取り入れてエネルギー消費を減らす」に対応する説明で、判断対象「自助具導入を最終末期まで避ける」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「疲労を意欲の問題とする」に対応する説明で、判断対象「自助具導入を最終末期まで避ける」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。必要な時期に早めに代償手段を導入する。判断対象は「自助具導入を最終末期まで避ける」。ALSでは機能低下を追いかけるだけでなく、先を見越して補助具や環境を準備することが重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「家族が全て代弁し本人には尋ねない」に対応する説明で、判断対象「発話が可能なうちから文字盤やICT機器など代替コミュニケーション手段を検討する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「コミュニケーション支援を行わない」に対応する説明で、判断対象「発話が可能なうちから文字盤やICT機器など代替コミュニケーション手段を検討する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「発話不能になるまで代替手段を検討しない」に対応する説明で、判断対象「発話が可能なうちから文字盤やICT機器など代替コミュニケーション手段を検討する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「発話が可能なうちから文字盤やICT機器など代替コミュニケーション手段を検討する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。進行性疾患では操作能力が残る時期からAACを選定・練習する。判断対象は「発話が可能なうちから文字盤やICT機器など代替コミュニケーション手段を検討する」。ALSの支援は現在能力だけでなく、将来の運動・呼吸・コミュニケーション変化を予測して行う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q045

脊髄損傷・神経筋疾患 > ALS・MS | 標準

多発性硬化症患者が午前中に活動を詰め込むと午後は何もできない。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「元気な午前中に全活動を集中させる」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 過度な不活動は廃用を招く。
- イ. 疲労は生活機能へ大きく影響する症状である。
- ウ. MSの疲労では活動配分・休息・環境調整が重要である。
- エ. 後半の活動不能を助長し得る。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「活動量を一律にゼロにする」に対応する説明で、判断対象「元気な午前中に全活動を集中させる」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「疲労を無視して継続する」に対応する説明で、判断対象「元気な午前中に全活動を集中させる」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「優先順位をつけ、活動と休息を分散してペースングする」に対応する説明で、判断対象「元気な午前中に全活動を集中させる」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「元気な午前中に全活動を集中させる」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。後半の活動不能を助長し得る。判断対象は「元気な午前中に全活動を集中させる」。疲労管理では時間帯、暑熱、睡眠、活動内容を記録し、本人の生活で持続可能な配分を作る。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q046

脊髄損傷・神経筋疾患 > ALS・MS | 応用

MS患者が熱い入浴後に一時的に視覚症状と筋力低下が増悪する。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「体温上昇による症状増悪を考え、過度な暑熱を避けて休息・冷却を工夫する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 症状を悪化させる可能性がある。
- イ. 一過性で体温低下に伴い改善する場合は新規再発とは限らない。
- ウ. MSでは体温上昇により既存神経症状が一時的に増悪することがある。
- エ. 生活調整が必要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「さらに熱い環境で運動する」に対応する説明で、判断対象「体温上昇による症状増悪を考え、過度な暑熱を避けて休息・冷却を工夫する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「病変が必ず新たに進行したと断定する」に対応する説明で、判断対象「体温上昇による症状増悪を考え、過度な暑熱を避けて休息・冷却を工夫する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「体温上昇による症状増悪を考え、過度な暑熱を避けて休息・冷却を工夫する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「症状を無視する」に対応する説明で、判断対象「体温上昇による症状増悪を考え、過度な暑熱を避けて休息・冷却を工夫する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。MSでは体温上昇により既存神経症状が一時的に増悪することがある。判断対象は「体温上昇による症状増悪を考え、過度な暑熱を避けて休息・冷却を工夫する」。MSの作業療法では疲労だけでなく温度環境を含む活動条件を調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q047

脊髄損傷・神経筋疾患 > 末梢神経・筋疾患 | 基礎

橈骨神経麻痺で下垂手があり、把持しにくい。最も適切な装具目的はどれか。この論点で、選択肢「肩関節だけを固定する」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 主な問題は手関節・手指伸展である。
- イ. 手関節伸展位を支持すると長指屈筋が効率よく働き把持しやすくなる。
- ウ. 掌屈位では把持力が低下しやすい。
- エ. 残存指機能を活用する。

OT05 Q048

脊髄損傷・神経筋疾患 > 末梢神経・筋疾患 | 基礎

尺骨神経麻痺による環指・小指のclaw変形に対する装具の目的として適切なものはどれか。この論点で、選択肢「MP関節過伸展を防ぎ、IP関節伸展を行いやすくする」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. anti-claw orthosisはMP過伸展を制限し、伸筋腱の力をIP伸展へ伝えやすくする。
- イ. 実用動作を妨げる。
- ウ. 目的と異なる。
- エ. claw変形を助長する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「肩関節だけを固定する」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「手関節を機能的伸展位に支持して把持を助ける」に対応する説明で、判断対象「肩関節だけを固定する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「手関節を最大掌屈位に固定する」に対応する説明で、判断対象「肩関節だけを固定する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「指屈曲を永久に禁止する」に対応する説明で、判断対象「肩関節だけを固定する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。主な問題は手関節・手指伸展である。判断対象は「肩関節だけを固定する」。末梢神経麻痺の装具は変形予防だけでなく、残存筋を利用して実用的手機能を高める目的で用いる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「MP関節過伸展を防ぎ、IP関節伸展を行いやすくする」が正答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「全指を完全伸展位に固定する」に対応する説明で、判断対象「MP関節過伸展を防ぎ、IP関節伸展を行いやすくする」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「手関節を最大掌屈させる」に対応する説明で、判断対象「MP関節過伸展を防ぎ、IP関節伸展を行いやすくする」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「MP関節をさらに過伸展させる」に対応する説明で、判断対象「MP関節過伸展を防ぎ、IP関節伸展を行いやすくする」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。anti-claw orthosisはMP過伸展を制限し、伸筋腱の力をIP伸展へ伝えやすくする。判断対象は「MP関節過伸展を防ぎ、IP関節伸展を行いやすくする」。神経麻痺装具は神経回復までの変形予防と機能代償を両立する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q049

脊髄損傷・神経筋疾患 > 末梢神経・筋疾患 | 標準

重症筋無力症患者が午前は更衣できるが、夕方には腕が上がらなくなる。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「疲労するほど最大筋力訓練を続ける」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 活動計画に重要な情報である。
- イ. 代償方法と時間調整で参加を支える。
- ウ. 神経筋接合部障害による易疲労性と日内変動を考慮する。
- エ. 過度な疲労を避ける。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「日内変動を無視する」に対応する説明で、判断対象「疲労するほど最大筋力訓練を続ける」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「更衣を永久に禁止する」に対応する説明で、判断対象「疲労するほど最大筋力訓練を続ける」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「疲労しにくい時間帯に重要な活動を配置し、適切な休息を挟む」に対応する説明で、判断対象「疲労するほど最大筋力訓練を続ける」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「疲労するほど最大筋力訓練を続ける」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。過度な疲労を避ける。判断対象は「疲労するほど最大筋力訓練を続ける」。神経筋疾患では筋力だけでなく、反復による疲労と回復性を生活場面で評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q050

脊髄損傷・神経筋疾患 > 末梢神経・筋疾患 | 応用

Guillain-Barré症候群の回復期で筋力が徐々に戻っているが、軽いADLでも翌日まで疲労が残る。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「疲労反応を確認しながら低負荷から活動量を段階的に増やす」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 過度な安静は廃用につながる。
- イ. 過度な負荷は回復を妨げる可能性がある。
- ウ. 遅れて出る疲労も負荷調整の指標となる。
- エ. 回復期は過用による疲労を避けつつ、反応に応じて活動量を増やす。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「回復するまで一切離床しない」に対応する説明で、判断対象「疲労反応を確認しながら低負荷から活動量を段階的に増やす」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「疲労が残っても最大負荷を回復する」に対応する説明で、判断対象「疲労反応を確認しながら低負荷から活動量を段階的に増やす」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「翌日の状態を確認しない」に対応する説明で、判断対象「疲労反応を確認しながら低負荷から活動量を段階的に増やす」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「疲労反応を確認しながら低負荷から活動量を段階的に増やす」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。回復期は過用による疲労を避けつつ、反応に応じて活動量を増やす。判断対象は「疲労反応を確認しながら低負荷から活動量を段階的に増やす」。神経筋疾患の運動量は当日の遂行だけでなく、活動後・翌日の疲労や筋力変化までみて調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q051

運動器・手外科・切断 > 骨折・OA・RA | 標準

橈骨遠位端骨折の固定除去後、手関節と手指に浮腫・可動域制限がある。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「手指も含めて長期間完全固定を続ける」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 骨癒合と固定条件を確認し、浮腫・疼痛・可動域へ段階的に介入する。
- イ. 固定後は皮膚や循環状態の確認も重要である。
- ウ. 不必要な固定は拘縮や浮腫を悪化させる。
- エ. 過大負荷は疼痛や損傷を助長する。

OT05 Q052

運動器・手外科・切断 > 骨折・OA・RA | 標準

上肢骨折術後で『5kg以上の持ち上げ禁止』と指示されている患者が退院予定である。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「買い物袋や調理器具の重さを確認し、荷重制限内で行える方法へ調整する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 生活動作でも荷重はかかる。
- イ. 骨癒合を妨げる可能性がある。
- ウ. 医学的制限を具体的な生活物品・動作へ置き換えて指導する。
- エ. 代替手段や一時的支援を検討する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「医師の許可範囲を確認し、浮腫管理と手指・手関節の段階的運動を行う」に対応する説明で、判断対象「手指も含めて長期間完全固定を続ける」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「皮膚状態を確認しない」に対応する説明で、判断対象「手指も含めて長期間完全固定を続ける」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「手指も含めて長期間完全固定を続ける」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「疼痛を無視して強い抵抗運動から開始する」に対応する説明で、判断対象「手指も含めて長期間完全固定を続ける」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。不必要な固定は拘縮や浮腫を悪化させる。判断対象は「手指も含めて長期間完全固定を続ける」。骨折後の作業療法では骨癒合の段階と荷重制限を守りながら、拘縮・浮腫・筋力低下・ADL障害を予防する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「ADLでは荷重制限は関係ないと説明する」に対応する説明で、判断対象「買い物袋や調理器具の重さを確認し、荷重制限内で行える方法へ調整する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「指示を無視して通常通り持たせる」に対応する説明で、判断対象「買い物袋や調理器具の重さを確認し、荷重制限内で行える方法へ調整する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「買い物袋や調理器具の重さを確認し、荷重制限内で行える方法へ調整する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「家事を永久に禁止する」に対応する説明で、判断対象「買い物袋や調理器具の重さを確認し、荷重制限内で行える方法へ調整する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。医学的制限を具体的な生活物品・動作へ置き換えて指導する。判断対象は「買い物袋や調理器具の重さを確認し、荷重制限内で行える方法へ調整する」。作業療法士は抽象的な医学的制限を、本人が理解できる生活上の行動基準へ変換する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q053

運動器・手外科・切断 > 骨折・OA・RA | 基礎

手指OAで瓶のふた開けに痛みが強い。最も適切な工夫はどれか。この論点で、選択肢「道具の使用を禁止する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 小関節へ高い負担が集中する。
- イ. 疼痛悪化につながる可能性がある。
- ウ. 把持面を大きくし摩擦を利用すると必要なピンチ力を減らせる。
- エ. 自助具は関節負担軽減に有用である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「細いふたを指先だけで強くつまむ」に対応する説明で、判断対象「道具の使用を禁止する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「痛みが強いほど反復回数を増やす」に対応する説明で、判断対象「道具の使用を禁止する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「滑り止めや大きなグリップのオープナーを使用する」に対応する説明で、判断対象「道具の使用を禁止する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「道具の使用を禁止する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。自助具は関節負担軽減に有用である。判断対象は「道具の使用を禁止する」。OAでは疼痛を減らしつつ活動を継続できるよう、道具・姿勢・作業方法を調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q054

運動器・手外科・切断 > 骨折・OA・RA | 基礎

関節リウマチ患者への関節保護指導として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「小関節へ力を集中させず、大きな関節や両手を利用する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 炎症・疼痛の増悪につながり得る。
- イ. 手指小関節へ負担が集中する。
- ウ. 力を分散し、大きな関節や両手を利用すると小関節への負担を減らせる。
- エ. 関節変形を助長する方向への負荷を避ける。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「疼痛関節へ長時間強い力を加える」に対応する説明で、判断対象「小関節へ力を集中させず、大きな関節や両手を利用する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「指先だけで重い鍋を持つ」に対応する説明で、判断対象「小関節へ力を集中させず、大きな関節や両手を利用する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「小関節へ力を集中させず、大きな関節や両手を利用する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「変形方向へ繰り返し力を加える」に対応する説明で、判断対象「小関節へ力を集中させず、大きな関節や両手を利用する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。力を分散し、大きな関節や両手を利用すると小関節への負担を減らせる。判断対象は「小関節へ力を集中させず、大きな関節や両手を利用する」。関節保護は『使わない』ことではなく、関節に過剰な負荷を集中させず作業を継続する方法である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q055

運動器・手外科・切断 > 骨折・OA・RA | 応用

RA患者の手関節に発赤・熱感・腫脹・安静時痛が強い。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「疼痛を無視して長時間作業する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 病期によって介入量を変える。
- イ. 活動性の高い炎症期は関節保護を優先し、過大負荷を避ける。
- ウ. 炎症関節へ高負荷を加えるのは不適切である。
- エ. 疼痛や腫脹は負荷調整の指標である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「炎症の有無にかかわらず同じ運動量にする」に対応する説明で、判断対象「疼痛を無視して長時間作業する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「炎症が強い時期は負荷を減らし、安静肢位・保護と無痛範囲の運動を検討する」に対応する説明で、判断対象「疼痛を無視して長時間作業する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「最大握力訓練を反復する」に対応する説明で、判断対象「疼痛を無視して長時間作業する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「疼痛を無視して長時間作業する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。疼痛や腫脹は負荷調整の指標である。判断対象は「疼痛を無視して長時間作業する」。RAでは疾患活動性と局所炎症を観察し、保護と運動のバランスを調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q056

運動器・手外科・切断 > 骨折・OA・RA | 基礎

母指CM関節症でつまみ動作時に母指基部痛が強い。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「母指CM関節を支持する装具と、強いピンチを減らす道具の使用を検討する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 強いピンチはCM関節負担を増やしやすい。
- イ. 目的や装具設計により活動時に用いる場合がある。
- ウ. 関節負荷を高める。
- エ. 関節支持と作業方法変更で疼痛を減らしながら手を使えるようにする。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「痛みを無視して細い物だけをつまむ」に対応する説明で、判断対象「母指CM関節を支持する装具と、強いピンチを減らす道具の使用を検討する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「装具は活動時に絶対使用できない」に対応する説明で、判断対象「母指CM関節を支持する装具と、強いピンチを減らす道具の使用を検討する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「母指を不安定な位置で強く反復する」に対応する説明で、判断対象「母指CM関節を支持する装具と、強いピンチを減らす道具の使用を検討する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「母指CM関節を支持する装具と、強いピンチを減らす道具の使用を検討する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。関節支持と作業方法変更で疼痛を減らしながら手を使えるようにする。判断対象は「母指CM関節を支持する装具と、強いピンチを減らす道具の使用を検討する」。装具は固定のためだけでなく、関節安定性を補って作業遂行を改善する目的で使用する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q057

運動器・手外科・切断 > 骨折・OA・RA | 基礎

膝OA患者が台所で30分立ち続けると疼痛が増悪する。作業療法として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「調理を永久にやめる」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 姿勢変更と作業分割で膝への持続負荷を減らせる。
- イ. 作業環境と時間構造も重要である。
- ウ. 疼痛増悪につながる。
- エ. 本人の役割を保つ方法を検討する。

OT05 Q058

運動器・手外科・切断 > 手外科・腱・末梢神経 | 基礎

屈筋腱縫合術後早期の作業療法として最も重要なのはどれか。この論点で、選択肢「術式・時期に応じたプロトコルに従い、再断裂を防ぎながら癒着予防のため腱滑走を促す」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 修復腱を過伸張・過負荷から守る必要がある。
- イ. 屈筋腱修復では保護と早期運動のバランスが重要である。
- ウ. 早期の高負荷は再断裂リスクを高める。
- エ. 創、腫脹、疼痛、腱滑走を継続評価する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「高い椅子を利用した座位作業や工程分割を取り入れる」に対応する説明で、判断対象「調理を永久にやめる」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「膝以外の生活条件は評価しない」に対応する説明で、判断対象「調理を永久にやめる」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「痛みがあっても立位を維持する」に対応する説明で、判断対象「調理を永久にやめる」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「調理を永久にやめる」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。本人の役割を保つ方法を検討する。判断対象は「調理を永久にやめる」。運動器疾患の作業療法では、機能訓練と同時に生活動作の負担量を調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「装具を外して自由に強く握る」に対応する説明で、判断対象「術式・時期に応じたプロトコルに従い、再断裂を防ぎながら癒着予防のため腱滑走を促す」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「術式・時期に応じたプロトコルに従い、再断裂を防ぎながら癒着予防のため腱滑走を促す」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「自己判断で最大抵抗把持を開始する」に対応する説明で、判断対象「術式・時期に応じたプロトコルに従い、再断裂を防ぎながら癒着予防のため腱滑走を促す」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「疼痛や創部状態を確認しない」に対応する説明で、判断対象「術式・時期に応じたプロトコルに従い、再断裂を防ぎながら癒着予防のため腱滑走を促す」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。屈筋腱修復では保護と早期運動のバランスが重要である。判断対象は「術式・時期に応じたプロトコルに従い、再断裂を防ぎながら癒着予防のため腱滑走を促す」。腱修復後は術式と医師指示に沿った装具・運動プロトコルを厳守し、癒着と再断裂の双方を予防する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q059

運動器・手外科・切断 > 手外科・腱・末梢神経 | 基礎

屈筋腱修復後に用いるdorsal blocking orthosisの主な目的はどれか。この論点で、選択肢「神経伝導速度を測定する」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 過伸展は修復腱へ負担をかける。
- イ. 装具は検査機器ではない。
- ウ. 手指腱保護が目的である。
- エ. 背側から伸展を制限し、修復した屈筋腱への過度な張力を防ぐ。

OT05 Q060

運動器・手外科・切断 > 手外科・腱・末梢神経 | 標準

伸筋腱修復後の作業療法で適切なものはどれか。この論点で、選択肢「損傷部位と修復時期に応じて、許可された範囲で伸展機構を保護しながら運動する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 伸筋腱は損傷zoneにより必要な装具・運動方法が異なる。
- イ. 高負荷は修復部へ過大な張力を加える。
- ウ. 部位によって治療戦略が異なる。
- エ. 浮腫は腱滑走や可動域へ影響する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「指を最大伸展位で強制固定する」に対応する説明で、判断対象「神経伝導速度を測定する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「神経伝導速度を測定する」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「肩関節を固定する」に対応する説明で、判断対象「神経伝導速度を測定する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「手関節・指の過度な伸展を制限して修復腱を保護する」に対応する説明で、判断対象「神経伝導速度を測定する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。装具は検査機器ではない。判断対象は「神経伝導速度を測定する」。装具角度や運動許容量は術式・治癒時期によって異なるため、プロトコルに従う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「損傷部位と修復時期に応じて、許可された範囲で伸展機構を保護しながら運動する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「術翌日から強い抵抗運動を行う」に対応する説明で、判断対象「損傷部位と修復時期に応じて、許可された範囲で伸展機構を保護しながら運動する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「全例で同じ装具・同じ運動を行う」に対応する説明で、判断対象「損傷部位と修復時期に応じて、許可された範囲で伸展機構を保護しながら運動する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「腫脹を評価しない」に対応する説明で、判断対象「損傷部位と修復時期に応じて、許可された範囲で伸展機構を保護しながら運動する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。伸筋腱は損傷zoneにより必要な装具・運動方法が異なる。判断対象は「損傷部位と修復時期に応じて、許可された範囲で伸展機構を保護しながら運動する」。手外科リハでは解剖学的zoneと修復法を理解し、プロトコルを個別化する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q061

運動器・手外科・切断 > 手外科・腱・末梢神経 | 標準

正中神経修復後、母指・示指の感覚が低下している。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「皮膚観察は不要とする」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 安全な範囲で機能使用を促す。
- イ. 皮膚損傷の早期発見が重要である。
- ウ. 知覚低下中は保護教育を行い、神経回復に応じて識別訓練等を行う。
- エ. 熱傷に気づきにくく危険である。

OT05 Q062

運動器・手外科・切断 > 手外科・腱・末梢神経 | 基礎

尺骨神経損傷でMP関節過伸展とIP関節屈曲が目立つ。最も適切な装具目的はどれか。この論点で、選択肢「MP関節過伸展を抑えてclaw変形を減らし、指伸展を助ける」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. lumbrical barなどでMP過伸展を制限し、伸筋機構を利用しやすくする。
- イ. claw変形の主要対策ではない。
- ウ. 機能を失わせる。
- エ. 変形を助長する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「感覚が戻るまで手を全く使わない」に対応する説明で、判断対象「皮膚観察は不要とする」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「皮膚観察は不要とする」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「感覚回復段階に応じた感覚再教育と、熱傷・切創予防の皮膚保護を行う」に対応する説明で、判断対象「皮膚観察は不要とする」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「感覚低下部へ熱い物を直接当てる」に対応する説明で、判断対象「皮膚観察は不要とする」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。皮膚損傷の早期発見が重要である。判断対象は「皮膚観察は不要とする」。末梢神経損傷では運動機能だけでなく感覚障害が手の安全性と巧緻性へ大きく影響する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「MP関節過伸展を抑えてclaw変形を減らし、指伸展を助ける」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「手関節だけを掌屈固定する」に対応する説明で、判断対象「MP関節過伸展を抑えてclaw変形を減らし、指伸展を助ける」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「全手指を最大屈曲位に固定する」に対応する説明で、判断対象「MP関節過伸展を抑えてclaw変形を減らし、指伸展を助ける」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「MP関節をさらに過伸展させる」に対応する説明で、判断対象「MP関節過伸展を抑えてclaw変形を減らし、指伸展を助ける」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。lumbrical barなどでMP過伸展を制限し、伸筋機構を利用しやすくする。判断対象は「MP関節過伸展を抑えてclaw変形を減らし、指伸展を助ける」。神経損傷用装具は変形予防、軟部組織長の保持、機能代償を目的に設計する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q063

運動器・手外科・切断 > 手外科・腱・末梢神経 | 基礎

末梢神経修復後、支配筋にわずかな随意収縮が再出現した。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「最初から最大抵抗を加える」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 再支配初期の筋へ過大負荷をかけない。
- イ. 運動再学習を促す時期である。
- ウ. 再支配筋は弱く疲れやすいため、選択的収縮を確認しながら負荷を進める。
- エ. 患側筋の再教育が必要である。

OT05 Q064

運動器・手外科・切断 > 切断・義手 | 基礎

上肢切断後の断端管理として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「創状態を確認しながら適切な圧迫と挙上で浮腫を管理する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 断端浮腫を管理し、義手適合に適した形状を整える。
- イ. 創・発赤・圧迫痕を観察する。
- ウ. 浮腫を増悪させることがある。
- エ. 循環障害や皮膚障害の危険がある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「最初から最大抵抗を加える」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「随意収縮が出ても固定だけ続ける」に対応する説明で、判断対象「最初から最大抵抗を加える」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「代償を抑えながら軽い自動運動から始め、回復に応じて抵抗を段階づける」に対応する説明で、判断対象「最初から最大抵抗を加える」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「反対側の筋だけ訓練する」に対応する説明で、判断対象「最初から最大抵抗を加える」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。再支配初期の筋へ過大負荷をかけない。判断対象は「最初から最大抵抗を加える」。神経回復期は筋力だけでなく運動パターン、感覚回復、拘縮、痛みを統合して治療する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「創状態を確認しながら適切な圧迫と挙上で浮腫を管理する」が正答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「皮膚観察を行わない」に対応する説明で、判断対象「創状態を確認しながら適切な圧迫と挙上で浮腫を管理する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「断端を常に下垂させる」に対応する説明で、判断対象「創状態を確認しながら適切な圧迫と挙上で浮腫を管理する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「過度に強く締めて血流を止める」に対応する説明で、判断対象「創状態を確認しながら適切な圧迫と挙上で浮腫を管理する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。断端浮腫を管理し、義手適合に適した形状を整える。判断対象は「創状態を確認しながら適切な圧迫と挙上で浮腫を管理する」。断端管理では圧迫、皮膚、疼痛、可動域、形状を継続して評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q065

運動器・手外科・切断 > 切断・義手 | 標準

上腕切断後に予防が重要な肩関節拘縮はどれか。この論点で、選択肢「手指屈曲拘縮」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア.「足関節底屈拘縮」について：下肢関節である。
- イ.「膝屈曲拘縮」について：下肢関節である。
- ウ.「手指屈曲拘縮」について：手指が残存しない高位では主要問題ではない。
- エ.「屈曲・内転拘縮」について：上腕切断後は断端を体幹近くで保持しやすく、肩屈曲・内転拘縮へ注意する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「足関節底屈拘縮」に対応する説明で、判断対象「手指屈曲拘縮」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「膝屈曲拘縮」に対応する説明で、判断対象「手指屈曲拘縮」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「手指屈曲拘縮」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「屈曲・内転拘縮」に対応する説明で、判断対象「手指屈曲拘縮」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。手指が残存しない高位では主要問題ではない。判断対象は「手指屈曲拘縮」。切断高位に応じて、義肢操作に必要な近位関節ROMを保つポジショニングと運動が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q066

運動器・手外科・切断 > 切断・義手 | 標準

上肢切断後の幻肢痛への非薬物的介入として検討されるものはどれか。この論点で、選択肢「鏡療法や段階的運動イメージ」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 過度な固定は機能低下につながる。
- イ. 鏡療法や運動イメージは幻肢痛への介入として用いられることがある。
- ウ. 疼痛を適切に評価する。
- エ. 侵害刺激を増やす可能性がある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「断端を永久に固定する」に対応する説明で、判断対象「鏡療法や段階的運動イメージ」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「鏡療法や段階的運動イメージ」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「痛みを訴えないよう指示する」に対応する説明で、判断対象「鏡療法や段階的運動イメージ」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「断端を強く叩き続ける」に対応する説明で、判断対象「鏡療法や段階的運動イメージ」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。鏡療法や運動イメージは幻肢痛への介入として用いられることがある。判断対象は「鏡療法や段階的運動イメージ」。幻肢痛は断端痛と区別して評価し、薬物療法を含む多面的な疼痛管理と連携する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q067

運動器・手外科・切断 > 切断・義手 | 基礎

体動式義手 body-powered prosthesis の特徴として正しいのはどれか。この論点で、選択肢「筋電信号だけで必ず操作する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 身体運動を動力として利用する。
- イ. 体動式義手は肩甲帯などの動きをケーブルへ伝えて操作する。
- ウ. 筋電義手の特徴である。
- エ. 作業用フック等で把持機能を持つ。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「外部電源がなければ全く操作できない」に対応する説明で、判断対象「筋電信号だけで必ず操作する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「ハーネスとケーブルを介して身体運動でターミナルデバイス进行操作する」に対応する説明で、判断対象「筋電信号だけで必ず操作する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「筋電信号だけで必ず操作する」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「装飾目的だけで把持機能を持たない」に対応する説明で、判断対象「筋電信号だけで必ず操作する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。筋電義手の特徴である。判断対象は「筋電信号だけで必ず操作する」。義手選択では切断高位、職業、両手作業、重量、外観、操作性など本人の生活条件を考える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q068

運動器・手外科・切断 > 切断・義手 | 基礎

筋電義手の操作原理として正しいのはどれか。この論点で、選択肢「断端の残存筋から得られる筋電信号を利用して電動部品を制御する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 一般的な筋電義手の制御ではない。
- イ. 音声制御が基本原理ではない。
- ウ. 体動式義手の操作法である。
- エ. 表面筋電信号を入力としてハンド等を制御する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「足圧中心で操作する」に対応する説明で、判断対象「断端の残存筋から得られる筋電信号を利用して電動部品を制御する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「音声だけで必ず操作する」に対応する説明で、判断対象「断端の残存筋から得られる筋電信号を利用して電動部品を制御する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「肩甲帯のケーブルだけで操作する」に対応する説明で、判断対象「断端の残存筋から得られる筋電信号を利用して電動部品を制御する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「断端の残存筋から得られる筋電信号を利用して電動部品を制御する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。表面筋電信号を入力としてハンド等を制御する。判断対象は「断端の残存筋から得られる筋電信号を利用して電動部品を制御する」。筋電義手では電極位置、筋分離、ソケット適合、充電・保守、実作業訓練が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q069

運動器・手外科・切断 > 切断・義手 | 基礎

新たに前腕義手を装着した患者への訓練順序として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「ソケットの皮膚状態を確認しない」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 本人の目標が義手訓練内容を決める。
- イ. 圧迫や皮膚障害を確認する。
- ウ. 難易度を段階づける必要がある。
- エ. 基本操作を安定させてから実用的な作業へ進む。

OT05 Q070

運動器・手外科・切断 > 疼痛・CRPS | 標準

手関節骨折後のCRPSで強い痛みと腫脹がある。最も適切な作業療法はどれか。この論点で、選択肢「疼痛反応をみながら穏やかな運動・浮腫管理・日常使用を段階的に進める」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 長期不動は拘縮や機能低下を助長する。
- イ. 視覚・運動介入が利用されることもある。
- ウ. 強い疼痛を引き起こす介入は感作を悪化させる可能性がある。
- エ. 過度な不動を避けつつ、許容範囲で機能使用を段階づける。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「義手を使う目的を本人に確認しない」に対応する説明で、判断対象「ソケットの皮膚状態を確認しない」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「ソケットの皮膚状態を確認しない」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「最初から複雑な職業作業だけを行う」に対応する説明で、判断対象「ソケットの皮膚状態を確認しない」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「装着・脱着と基本操作を習得し、物品操作から両手ADLへ段階づける」に対応する説明で、判断対象「ソケットの皮膚状態を確認しない」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。圧迫や皮膚障害を確認する。判断対象は「ソケットの皮膚状態を確認しない」。義手訓練は機器操作の習得だけでなく、本人が望む両手作業へ使用を定着させる過程である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「完全不動を長期間続ける」に対応する説明で、判断対象「疼痛反応をみながら穏やかな運動・浮腫管理・日常使用を段階的に進める」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「患肢を全く見ないようにする」に対応する説明で、判断対象「疼痛反応をみながら穏やかな運動・浮腫管理・日常使用を段階的に進める」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「痛みを無視して強いストレッチを反復する」に対応する説明で、判断対象「疼痛反応をみながら穏やかな運動・浮腫管理・日常使用を段階的に進める」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「疼痛反応をみながら穏やかな運動・浮腫管理・日常使用を段階的に進める」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。過度な不動を避けつつ、許容範囲で機能使用を段階づける。判断対象は「疼痛反応をみながら穏やかな運動・浮腫管理・日常使用を段階的に進める」。CRPSでは疼痛だけでなく浮腫、感覚、自律神経症状、可動域、恐怖回避を含めた多面的介入を行う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q071

運動器・手外科・切断 > 疼痛・CRPS | 標準

CRPSで軽い布が触れるだけでも強く痛む。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「感覚症状を無視する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 完全回避は使用低下につながる。
- イ. アロディニアは重要な治療対象である。
- ウ. 過度な侵害刺激は症状を増悪させる可能性がある。
- エ. 脱感作は許容可能な刺激から徐々に種類・強度を広げる。

OT05 Q072

運動器・手外科・切断 > 疼痛・CRPS | 基礎

組織治癒後も『動かすとまた壊れる』という恐怖から手を使わず、生活範囲が縮小している。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「安全性を説明し、本人と目標を設定して活動量を段階的に増やす」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 慢性疼痛では恐怖回避を評価し、安全な活動経験を積みながら機能を回復する。
- イ. 心理社会的要因も作業遂行へ影響する。
- ウ. 完全回避は廃用や恐怖を維持することがある。
- エ. 急激な過負荷は不安と症状を増やし得る。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「患肢への刺激を永久に禁止する」に対応する説明で、判断対象「感覚症状を無視する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「感覚症状を無視する」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「最も痛い刺激を突然長時間与える」に対応する説明で、判断対象「感覚症状を無視する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「耐えられる刺激から段階的に触覚刺激へ慣らす脱感作を行う」に対応する説明で、判断対象「感覚症状を無視する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。アロディニアは重要な治療対象である。判断対象は「感覚症状を無視する」。感覚再教育では本人がコントロールできる範囲で刺激を調整し、恐怖を減らしながら患肢使用を広げる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「安全性を説明し、本人と目標を設定して活動量を段階的に増やす」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「本人の不安は治療と無関係とする」に対応する説明で、判断対象「安全性を説明し、本人と目標を設定して活動量を段階的に増やす」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「痛みが0になるまで全活動を禁止する」に対応する説明で、判断対象「安全性を説明し、本人と目標を設定して活動量を段階的に増やす」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「恐怖を無視して最大負荷を突然行う」に対応する説明で、判断対象「安全性を説明し、本人と目標を設定して活動量を段階的に増やす」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。慢性疼痛では恐怖回避を評価し、安全な活動経験を積みながら機能を回復する。判断対象は「安全性を説明し、本人と目標を設定して活動量を段階的に増やす」。慢性疼痛の目標は痛みの完全消失だけでなく、価値ある活動と役割への段階的な復帰を含む。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q073

精神障害作業療法 > 統合失調症 | 標準

統合失調症で自発性が低く、病棟でもほとんど活動しない患者への初期介入として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「最初から長時間の集団活動を強制する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 過大な要求は参加低下につながり得る。
- イ. 症状として自発性低下を理解する。
- ウ. 興味・価値は活動選択に重要である。
- エ. 陰性症状が強い場合は低負荷・短時間から活動開始を支援する。

OT05 Q074

精神障害作業療法 > 統合失調症 | 標準

幻聴と被害妄想が強く、集団場面で緊張が高まる患者への対応として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「刺激の少ない環境で対一または小集団から開始する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 妄想を直接否定して対立を強めない。
- イ. 状態に応じて負荷を下げる。
- ウ. 刺激過多となる可能性がある。
- エ. 症状が強い時期は刺激量と対人要求を調整する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「最初から長時間の集団活動を強制する」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「活動しないことを怠慢と決めつける」に対応する説明で、判断対象「最初から長時間の集団活動を強制する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「本人の興味を確認しない」に対応する説明で、判断対象「最初から長時間の集団活動を強制する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「短時間で達成可能な活動を本人と選び、成功体験を積めるようにする」に対応する説明で、判断対象「最初から長時間の集団活動を強制する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。過大な要求は参加低下につながり得る。判断対象は「最初から長時間の集団活動を強制する」。陰性症状への作業療法では、活動開始のしやすさ、成功可能性、生活リズムを重視して段階づける。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「妄想内容を強く論破する」に対応する説明で、判断対象「刺激の少ない環境で対一または小集団から開始する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「不安が強くても課題量を増やす」に対応する説明で、判断対象「刺激の少ない環境で対一または小集団から開始する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「大人数の競争活動へ参加させる」に対応する説明で、判断対象「刺激の少ない環境で対一または小集団から開始する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「刺激の少ない環境で対一または小集団から開始する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。症状が強い時期は刺激量と対人要求を調整する。判断対象は「刺激の少ない環境で対一または小集団から開始する」。急性期は安全と治療関係形成を優先し、過剰刺激を避けて活動参加を支える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q075

精神障害作業療法 > 統合失調症 | 標準

統合失調症患者が複数工程の作業で手順を忘れやすい。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「工程数をさらに増やす」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 認知機能障害として支援する。
- イ. 課題要求が高くなる。
- ウ. 情報保持が難しい場合に不適切である。
- エ. 視覚の手掛かりや課題構造化で認知負荷を減らせる。

OT05 Q076

精神障害作業療法 > 統合失調症 | 基礎

昼夜逆転が続く統合失調症患者への作業療法として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「起床・食事・活動・休息の時間を本人と整理し、日中活動を徐々に増やす」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 睡眠・活動記録は調整に役立つ。
- イ. 昼夜逆転を固定化しやすい。
- ウ. 日中覚醒を促す方向で調整する。
- エ. 生活リズムの可視化と日中活動の導入が有用である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「失敗を本人の努力不足とする」に対応する説明で、判断対象「工程数をさらに増やす」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「工程数をさらに増やす」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「説明を一度だけ長く行う」に対応する説明で、判断対象「工程数をさらに増やす」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「手順表を用い、一工程ずつ確認できるようにする」に対応する説明で、判断対象「工程数をさらに増やす」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。課題要求が高くなる。判断対象は「工程数をさらに増やす」。統合失調症では注意・記憶・遂行機能の弱さが生活技能へ影響することがある。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「睡眠記録を行わない」に対応する説明で、判断対象「起床・食事・活動・休息の時間を本人と整理し、日中活動を徐々に増やす」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「昼間も寝続けるよう勧める」に対応する説明で、判断対象「起床・食事・活動・休息の時間を本人と整理し、日中活動を徐々に増やす」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「夜間だけ活動量を増やす」に対応する説明で、判断対象「起床・食事・活動・休息の時間を本人と整理し、日中活動を徐々に増やす」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「起床・食事・活動・休息の時間を本人と整理し、日中活動を徐々に増やす」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。生活リズムの可視化と日中活動の導入が有用である。判断対象は「起床・食事・活動・休息の時間を本人と整理し、日中活動を徐々に増やす」。精神科作業療法では睡眠、食事、服薬、活動、社会参加を一日の時間構造として捉える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q077

精神障害作業療法 > 統合失調症 | 標準

抗精神病薬開始後、日中の眠気と動作緩慢が強まり作業参加が低下した。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「服薬を自己判断で中止するよう勧める」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 薬剤調整は医師と連携する。
- イ. 薬剤の影響も検討する。
- ウ. 過負荷になる可能性がある。
- エ. 眠気や錐体外路症状は活動性へ影響するため共有が必要である。

OT05 Q078

精神障害作業療法 > 統合失調症 | 応用

統合失調症患者が退院前に再発予防計画を作る。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「不眠や対人回避など本人に起こりやすい前駆徴候と対処法を整理する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 本人固有の早期徴候と対処行動を共有する。
- イ. 睡眠・ストレス・生活変化も関連する。
- ウ. 前駆徴候は個人差がある。
- エ. 本人参加が重要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「服薬を自己判断で中止するよう勧める」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「本人の意欲不足とだけ判断する」に対応する説明で、判断対象「服薬を自己判断で中止するよう勧める」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「作業量を倍増する」に対応する説明で、判断対象「服薬を自己判断で中止するよう勧める」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「症状と薬剤副作用の可能性を区別して観察し、医療チームへ共有する」に対応する説明で、判断対象「服薬を自己判断で中止するよう勧める」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。薬剤調整は医師と連携する。判断対象は「服薬を自己判断で中止するよう勧める」。精神科では症状・副作用・生活リズムを同時に評価して活動設定を調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「不眠や対人回避など本人に起こりやすい前駆徴候と対処法を整理する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「服薬以外の生活要因は扱わない」に対応する説明で、判断対象「不眠や対人回避など本人に起こりやすい前駆徴候と対処法を整理する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「再発徴候は全員同じと考える」に対応する説明で、判断対象「不眠や対人回避など本人に起こりやすい前駆徴候と対処法を整理する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「家族だけで計画を決める」に対応する説明で、判断対象「不眠や対人回避など本人に起こりやすい前駆徴候と対処法を整理する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。本人固有の早期徴候と対処行動を共有する。判断対象は「不眠や対人回避など本人に起こりやすい前駆徴候と対処法を整理する」。再発予防では本人が気づけるサインと、誰に相談し何を変えるかを具体化する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q079

精神障害作業療法 > 統合失調症 | 応用

症状が一部残る統合失調症患者が『また働きたい』と希望している。最も適切なのはどれか。
この論点で、選択肢「症状が完全消失するまで就労を禁止する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 症状が残っていても本人の目標に沿った参加を支援する。
- イ. 支援付き参加を検討する。
- ウ. 完全寛解だけが参加条件ではない。
- エ. 共同意思決定が重要である。

OT05 Q080

精神障害作業療法 > 気分障害 | 基礎

重度の抑うつで集中力と意欲が低下している患者への活動設定として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「短時間で達成できる単純な活動から開始する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 疲労と気分変化を確認する。
- イ. 自己効力感を低下させる可能性がある。
- ウ. 低負荷で成功体験を得られる活動が参加を促しやすい。
- エ. 認知・心理的負荷が高い。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「症状の程度と希望職種、生活リズム、支援ニーズを評価し就労目標を検討する」に対応する説明で、判断対象「症状が完全消失するまで就労を禁止する」の直接の根拠ではない。
イ：誤り。これは別の選択肢「失敗予防のため社会参加を避ける」に対応する説明で、判断対象「症状が完全消失するまで就労を禁止する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「症状が完全消失するまで就労を禁止する」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「医療者だけで目標を決める」に対応する説明で、判断対象「症状が完全消失するまで就労を禁止する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。完全寛解だけが参加条件ではない。判断対象は「症状が完全消失するまで就労を禁止する」。精神障害作業療法では症状軽減とともに、本人が望む役割・生活の再獲得を重視する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「疲労を無視する」に対応する説明で、判断対象「短時間で達成できる単純な活動から開始する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「失敗しやすい課題だけを選ぶ」に対応する説明で、判断対象「短時間で達成できる単純な活動から開始する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「短時間で達成できる単純な活動から開始する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「複雑な競争課題を長時間行う」に対応する説明で、判断対象「短時間で達成できる単純な活動から開始する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。低負荷で成功体験を得られる活動が参加を促しやすい。判断対象は「短時間で達成できる単純な活動から開始する」。抑うつ期は活動量を個別に調整し、徐々に生活リズムと役割を再構築する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q081

精神障害作業療法 > 気分障害 | 標準

抑うつ状態で家に閉じこもり、以前楽しんでいた活動もやめている。行動活性化の考え方に合うのはどれか。この論点で、選択肢「失敗を避けるため外出を禁止する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 活動と気分の関係を確認しながら段階的に行動を増やす。
- イ. 本人の価値や選択を反映する。
- ウ. 安全な範囲で活動機会を増やす。
- エ. 活動低下が抑うつを維持することがある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「価値のある小さな活動を予定し、実行と気分の変化を記録する」に対応する説明で、判断対象「失敗を避けるため外出を禁止する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「予定を全て他者が決める」に対応する説明で、判断対象「失敗を避けるため外出を禁止する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「失敗を避けるため外出を禁止する」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「気分が完全に良くなるまで活動しない」に対応する説明で、判断対象「失敗を避けるため外出を禁止する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。安全な範囲で活動機会を増やす。判断対象は「失敗を避けるため外出を禁止する」。行動活性化では『気分が良くなってから動く』だけでなく、行動を通じて正の経験を増やす。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q082

精神障害作業療法 > 気分障害 | 標準

躁状態で次々と活動を始め、他者へ頻繁に話しかける患者への対応として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「刺激を整理し、一度に行う活動を限定して休息時間を設ける」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 活動過多と過剰刺激を減らし休息を確保する。
- イ. 睡眠不足は症状悪化に関連する。
- ウ. 興奮を増強し得る。
- エ. 判断力低下時には安全な金銭管理が必要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「刺激を整理し、一度に行う活動を限定して休息時間を設ける」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「睡眠時間を削る」に対応する説明で、判断対象「刺激を整理し、一度に行う活動を限定して休息時間を設ける」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「活動をさらに増やす」に対応する説明で、判断対象「刺激を整理し、一度に行う活動を限定して休息時間を設ける」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「金銭を自由に大量使用できるようにする」に対応する説明で、判断対象「刺激を整理し、一度に行う活動を限定して休息時間を設ける」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。活動過多と過剰刺激を減らし休息を確保する。判断対象は「刺激を整理し、一度に行う活動を限定して休息時間を設ける」。躁状態では活動性の高さを能力向上と誤認せず、安全性と生活リズムを優先する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q083

精神障害作業療法 > 気分障害 | 応用

うつ病患者が作業中に『家族に迷惑をかけるくらいなら死んだ方がいい』と話した。最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「励ますだけで帰宅させる」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 自殺リスクは直接評価し安全確保とチーム連携を行う。
- イ. 高リスク時は評価と安全計画が必要である。
- ウ. 医療者として安全確保へ関与する。
- エ. 重要なリスク情報を見逃す。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「自殺念慮や計画を確認し、単独にせず医療チームへ速やかに共有する」に対応する説明で、判断対象「励ますだけで帰宅させる」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「励ますだけで帰宅させる」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「危険性を本人だけに任せる」に対応する説明で、判断対象「励ますだけで帰宅させる」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「話題を変えて聞かなかったことにする」に対応する説明で、判断対象「励ますだけで帰宅させる」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。高リスク時は評価と安全計画が必要である。判断対象は「励ますだけで帰宅させる」。精神科作業療法中でも自殺関連発言は治療活動より優先して対応する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q084

精神障害作業療法 > 気分障害 | 標準

双極性障害で再発予防に有用な生活記録はどれか。この論点で、選択肢「睡眠時間、活動量、気分変化を継続的に記録する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 複数の生活変化を見る。
- イ. 睡眠減少や活動量変化は躁・抑うつ再発の手掛かりとなる。
- ウ. 気分障害の再発評価には不十分である。
- エ. 安定期の基準を知ることも重要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「食事内容だけで全て判断する」に対応する説明で、判断対象「睡眠時間、活動量、気分変化を継続的に記録する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「睡眠時間、活動量、気分変化を継続的に記録する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「筋力だけを記録する」に対応する説明で、判断対象「睡眠時間、活動量、気分変化を継続的に記録する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「症状が良い時は記録しない」に対応する説明で、判断対象「睡眠時間、活動量、気分変化を継続的に記録する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。睡眠減少や活動量変化は躁・抑うつ再発の手掛かりとなる。判断対象は「睡眠時間、活動量、気分変化を継続的に記録する」。本人固有の変化を継続的に把握すると、早期受診や活動調整につなげやすい。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q085

精神障害作業療法 > 気分障害 | 応用

うつ病から回復し復職を希望するが、集中作業は1時間で疲労が強い。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「復職希望を聞かず退職を勧める」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 回復度と職務要求を照合し段階的に負荷を上げる。
- イ. 本人の希望と選択を尊重する。
- ウ. 疲労は重要な復職指標である。
- エ. 再燃リスクが高まる可能性がある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「作業耐久性を評価し、短時間勤務や業務調整を含む段階的復職を検討する」に対応する説明で、判断対象「復職希望を聞かず退職を勧める」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「復職希望を聞かず退職を勧める」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「疲労を無視する」に対応する説明で、判断対象「復職希望を聞かず退職を勧める」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「直ちに残業を含む通常勤務へ戻す」に対応する説明で、判断対象「復職希望を聞かず退職を勧める」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。本人の希望と選択を尊重する。判断対象は「復職希望を聞かず退職を勧める」。復職支援では症状だけでなく、通勤、勤務時間、認知耐久性、職場配慮を含めて評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q086

精神障害作業療法 > ストレス関連・摂食・依存等 | 標準

PTSD患者が特定の音で強く緊張し活動を中断する。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「誘因を確認し、安全感を保てる環境と本人が選べる退避方法を整える」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 無計画な曝露は症状悪化につながり得る。
- イ. 選択可能性を保つ。
- ウ. 体験を否定しない。
- エ. トラウマインフォームドな支援では安全とコントロール感を重視する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「慣れさせるため突然大きな音を繰り返す」に対応する説明で、判断対象「誘因を確認し、安全感を保てる環境と本人が選べる退避方法を整える」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「逃げ場をなくす」に対応する説明で、判断対象「誘因を確認し、安全感を保てる環境と本人が選べる退避方法を整える」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「反応を大げさだと伝える」に対応する説明で、判断対象「誘因を確認し、安全感を保てる環境と本人が選べる退避方法を整える」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「誘因を確認し、安全感を保てる環境と本人が選べる退避方法を整える」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。トラウマインフォームドな支援では安全とコントロール感を重視する。判断対象は「誘因を確認し、安全感を保てる環境と本人が選べる退避方法を整える」。PTSDへの作業療法では日常生活上の誘因と回避行動を評価し、安全な参加を段階づける。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q087

精神障害作業療法 > ストレス関連・摂食・依存等 | 標準

電車への強い不安から通勤できない患者への段階的曝露として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「電車を永久に避ける」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 本人と合意した不安階層に沿って段階的に接近する。
- イ. 回避を固定化する。
- ウ. 過大な曝露は継続困難になり得る。
- エ. 主観的不安や安全性を確認する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「駅まで行く、短区間乗車するなど本人と段階を決める」に対応する説明で、判断対象「電車を永久に避ける」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「電車を永久に避ける」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「初回から混雑した長距離電車へ強制乗車させる」に対応する説明で、判断対象「電車を永久に避ける」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「不安を評価しない」に対応する説明で、判断対象「電車を永久に避ける」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。回避を固定化する。判断対象は「電車を永久に避ける」。曝露は生活目標と関連づけ、本人の理解と同意のもとで行う。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q088

精神障害作業療法 > ストレス関連・摂食・依存等 | 応用

神経性やせ症患者が強い倦怠感とふらつきを訴え、脈拍も遅い。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「活動を控え全身状態を医療チームへ報告し、医学的安全性を確認する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 生命に関わることがある。
- イ. 摂食障害では低栄養・循環・電解質異常など医学的リスクを優先する。
- ウ. 全身状態評価が必要である。
- エ. 状態によって運動制限が必要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「低栄養の影響を無視する」に対応する説明で、判断対象「活動を控え全身状態を医療チームへ報告し、医学的安全性を確認する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「活動を控え全身状態を医療チームへ報告し、医学的安全性を確認する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「体重の話だけをして活動を続ける」に対応する説明で、判断対象「活動を控え全身状態を医療チームへ報告し、医学的安全性を確認する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「運動量を増やして体力をつける」に対応する説明で、判断対象「活動を控え全身状態を医療チームへ報告し、医学的安全性を確認する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。摂食障害では低栄養・循環・電解質異常など医学的リスクを優先する。判断対象は「活動を控え全身状態を医療チームへ報告し、医学的安全性を確認する」。摂食障害の作業療法は医学的安定性を前提に、生活リズム・身体像・役割・対人関係へ介入する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q089

精神障害作業療法 > ストレス関連・摂食・依存等 | 標準

アルコール依存症患者が『仕事帰りに一人になると飲みたくなる』と話した。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「余暇活動を全て禁止する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 高リスク状況と代替行動を具体化することが再発予防に役立つ。
- イ. 依存症を道徳的問題だけで扱わない。
- ウ. パターン把握が重要である。
- エ. 健康的な代替活動を増やす。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「飲酒の引き金を整理し、その時間帯の代替活動や支援先を具体化する」に対応する説明で、判断対象「余暇活動を全て禁止する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「意思が弱いと叱る」に対応する説明で、判断対象「余暇活動を全て禁止する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「飲みたくなる場面を記録しない」に対応する説明で、判断対象「余暇活動を全て禁止する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「余暇活動を全て禁止する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。健康的な代替活動を増やす。判断対象は「余暇活動を全て禁止する」。依存症では物質使用だけでなく、生活時間・対人関係・ストレス対処・余暇を再構築する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q090

精神障害作業療法 > ストレス関連・摂食・依存等 | 応用

断酒を続けていた患者が一度飲酒してしまった。作業療法士の対応として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「再使用に至った状況を一緒に振り返り、再発予防計画を修正する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 支援継続が重要である。
- イ. 治療チームとの正確な共有が必要である。
- ウ. 非難だけでは再発予防につながらない。
- エ. 再使用を学習材料として引き金と対策を見直す。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「失敗したので支援を終了する」に対応する説明で、判断対象「再使用に至った状況を一緒に振り返り、再発予防計画を修正する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「再使用を隠すよう勧める」に対応する説明で、判断対象「再使用に至った状況を一緒に振り返り、再発予防計画を修正する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「責めて自己効力感を下げる」に対応する説明で、判断対象「再使用に至った状況を一緒に振り返り、再発予防計画を修正する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「再使用に至った状況を一緒に振り返り、再発予防計画を修正する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。再使用を学習材料として引き金と対策を見直す。判断対象は「再使用に至った状況を一緒に振り返り、再発予防計画を修正する」。依存症は再発を伴い得るため、継続支援と生活再構築が重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q091

精神障害作業療法 > SST・集団療法・心理教育等 | 基礎

SST Social Skills Training で一般的に用いられる方法はどれか。この論点で、選択肢「講義だけで技能は練習しない」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 肯定的・具体的フィードバックを用いる。
- イ. SSTはモデリング、ロールプレイ、フィードバック、反復練習などを用いる。
- ウ. 技能獲得には練習が重要である。
- エ. 社会生活技能の実践が中心である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「失敗を批判することを中心とする」に対応する説明で、判断対象「講義だけで技能は練習しない」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「目標となる対人場面をロールプレイし、フィードバックと再練習を行う」に対応する説明で、判断対象「講義だけで技能は練習しない」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「講義だけで技能は練習しない」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「対人場面を一切扱わない」に対応する説明で、判断対象「講義だけで技能は練習しない」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。技能獲得には練習が重要である。判断対象は「講義だけで技能は練習しない」。SSTは実生活で必要な挨拶、依頼、断り方などを具体的に練習する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q092

精神障害作業療法 > SST・集団療法・心理教育等 | 標準

『人付き合いを良くする』というSST目標を具体化する例として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「店員に必要な商品を一文で尋ねる」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 抽象的で評価困難である。
- イ. 本人だけでは制御できない。
- ウ. 観察可能で練習可能な行動へ具体化されている。
- エ. 不安の完全消失は行動目標ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「性格を変える」に対応する説明で、判断対象「店員に必要な商品を一文で尋ねる」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「誰とでも必ず仲良くなる」に対応する説明で、判断対象「店員に必要な商品を一文で尋ねる」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「店員に必要な商品を一文で尋ねる」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「緊張を完全になくす」に対応する説明で、判断対象「店員に必要な商品を一文で尋ねる」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。観察可能で練習可能な行動へ具体化されている。判断対象は「店員に必要な商品を一文で尋ねる」。SSTでは本人が必要とする現実的な対人行動を小さな技能へ分けて練習する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q093

精神障害作業療法 > SST・集団療法・心理教育等 | 標準

統合失調症の心理教育として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「一方向に専門用語だけを説明する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 心理教育は知識を生活上の自己管理へつなげる。
- イ. 質問・確認を行う。
- ウ. 本人参加を基本とする。
- エ. 理解度に合わせた双方向の学習が重要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「症状、治療、服薬、再発徴候、対処法を本人が理解し自己管理へ生かせるよう支援する」に対応する説明で、判断対象「一方向に専門用語だけを説明する」の直接の根拠ではない。
イ：誤り。これは別の選択肢「本人の質問を受け付けない」に対応する説明で、判断対象「一方向に専門用語だけを説明する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「家族だけへ説明し本人には伝えない」に対応する説明で、判断対象「一方向に専門用語だけを説明する」の直接の根拠ではない。
エ：正しい。これは判断対象「一方向に専門用語だけを説明する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。理解度に合わせた双方向の学習が重要である。判断対象は「一方向に専門用語だけを説明する」。心理教育は知識提供だけでなく、本人が症状や生活変化に気づき対処できる力を支える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q094

精神障害作業療法 > SST・集団療法・心理教育等 | 標準

作業療法の集団活動の利点として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「他者との役割分担や相互フィードバックを経験できる」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 集団は対人交流、役割、協力、自己認識を経験する場となる。
- イ. 症状と刺激耐性を考慮する。
- ウ. 役割は能力や目標に応じて調整する。
- エ. 目的に応じて個人・集団を選択する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「他者との役割分担や相互フィードバックを経験できる」が正答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「症状が強いほど大集団が適する」に対応する説明で、判断対象「他者との役割分担や相互フィードバックを経験できる」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「全員に同じ役割を固定する」に対応する説明で、判断対象「他者との役割分担や相互フィードバックを経験できる」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「必ず個人療法より優れている」に対応する説明で、判断対象「他者との役割分担や相互フィードバックを経験できる」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。集団は対人交流、役割、協力、自己認識を経験する場となる。判断対象は「他者との役割分担や相互フィードバックを経験できる」。集団活動は作品完成だけでなく、参加の仕方や対人関係そのものを治療的に扱える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q095

精神障害作業療法 > SST・集団療法・心理教育等 | 応用

対人不安が強く、5人集団では発言できないが作業には関心がある。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「集団療法を永久に禁止する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 本人のコントロール感を損ねる。
- イ. 負荷が高すぎる。
- ウ. 適切な条件で参加可能性を探る。
- エ. 対人要求を段階づけて成功経験を作る。

OT05 Q096

精神障害作業療法 > 地域移行・リハビリ・就労 | 標準

長期入院患者の地域移行支援として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「退院前から住まい、金銭、服薬、食事、相談先など地域生活課題を練習する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 入院中から段階的に準備する。
- イ. 地域支援体制を確認する。
- ウ. 退院後生活を具体的に想定して準備する。
- エ. IADLと社会資源も必要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「不安を無視して発言を強制する」に対応する説明で、判断対象「集団療法を永久に禁止する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「大人数の司会を任せる」に対応する説明で、判断対象「集団療法を永久に禁止する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「集団療法を永久に禁止する」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「見学や2人活動など低負荷の参加から始め、本人と段階を決める」に対応する説明で、判断対象「集団療法を永久に禁止する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。適切な条件で参加可能性を探る。判断対象は「集団療法を永久に禁止する」。集団療法では人数、役割、発言量、競争性などを調整して治療的負荷を設定する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「退院後に初めて生活課題を確認する」に対応する説明で、判断対象「退院前から住まい、金銭、服薬、食事、相談先など地域生活課題を練習する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「地域資源を確認しない」に対応する説明で、判断対象「退院前から住まい、金銭、服薬、食事、相談先など地域生活課題を練習する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「退院前から住まい、金銭、服薬、食事、相談先など地域生活課題を練習する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「病棟ADLだけで退院準備を判断する」に対応する説明で、判断対象「退院前から住まい、金銭、服薬、食事、相談先など地域生活課題を練習する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。退院後生活を具体的に想定して準備する。判断対象は「退院前から住まい、金銭、服薬、食事、相談先など地域生活課題を練習する」。地域移行では『退院すること』ではなく地域で生活を継続できることを目標とする。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q097

精神障害作業療法 > 地域移行・リカバリー・就労 | 基礎

精神障害領域のリカバリーの考え方として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「症状が完全消失した状態だけを指す」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 参加を支える。
- イ. リカバリーは本人の希望・意味・役割を重視する。
- ウ. 症状消失だけに限定されない。
- エ. 本人中心である。

OT05 Q098

精神障害作業療法 > 地域移行・リカバリー・就労 | 標準

精神障害のある人の就労支援で最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「本人の希望、勤務時間、対人要求、認知負荷、通勤などを職務内容と照合する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 支援付き就労の可能性を検討する。
- イ. 就労は本人と職務・環境の適合で考える。
- ウ. 個別の能力と希望を見る。
- エ. 職場配慮が重要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「社会参加を避けることを目標とする」に対応する説明で、判断対象「症状が完全消失した状態だけを指す」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「症状が残っていても本人が希望する生活や役割を取り戻すことを支援する」に対応する説明で、判断対象「症状が完全消失した状態だけを指す」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「症状が完全消失した状態だけを指す」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「支援者が本人の人生目標を決める」に対応する説明で、判断対象「症状が完全消失した状態だけを指す」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。症状消失だけに限定されない。判断対象は「症状が完全消失した状態だけを指す」。作業療法は本人の強みと意味ある作業を用いてリカバリーを支援する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「症状があれば就労を一律に禁止する」に対応する説明で、判断対象「本人の希望、勤務時間、対人要求、認知負荷、通勤などを職務内容と照合する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「本人の希望、勤務時間、対人要求、認知負荷、通勤などを職務内容と照合する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「診断名だけで職種を決める」に対応する説明で、判断対象「本人の希望、勤務時間、対人要求、認知負荷、通勤などを職務内容と照合する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「職場環境を評価しない」に対応する説明で、判断対象「本人の希望、勤務時間、対人要求、認知負荷、通勤などを職務内容と照合する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。就労は本人と職務・環境の適合で考える。判断対象は「本人の希望、勤務時間、対人要求、認知負荷、通勤などを職務内容と照合する」。就労支援では作業能力、生活リズム、ストレス対処、職場環境を統合して評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q099

精神障害作業療法 > 地域移行・リハビリ・就労 | 応用

Individual Placement and Support IPS の考え方として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「長期訓練を終えるまで就職活動を禁止する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. IPSは本人の希望に基づく一般就労と迅速な職探し、継続支援を重視する。
- イ. 長い就労前訓練を必須としない。
- ウ. 本人の選択を重視する。
- エ. 就職後の定着支援も行う。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「一般就労を希望する本人の選択を尊重し、早期に職探しを行い医療支援と就労支援を統合する」に対応する説明で、判断対象「長期訓練を終えるまで就職活動を禁止する」の直接の根拠ではない。
イ：正しい。これは判断対象「長期訓練を終えるまで就職活動を禁止する」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「支援者が職種を一方的に決める」に対応する説明で、判断対象「長期訓練を終えるまで就職活動を禁止する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「就職後は支援を終了する」に対応する説明で、判断対象「長期訓練を終えるまで就職活動を禁止する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。長い就労前訓練を必須としない。判断対象は「長期訓練を終えるまで就職活動を禁止する」。精神障害者の就労支援では『準備が完全になるまで待つ』だけでなく実際の職場で支える考え方がある。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q100

精神障害作業療法 > 地域移行・リハビリ・就労 | 応用

一人暮らし退院予定で日中の居場所がなく、再発時に相談できる人もいない。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「本人の希望を聞き、地域活動支援センター等の居場所や相談先を退院前につなぐ」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 予防的に連携する。
- イ. 社会的孤立と相談先不足は地域生活継続へ影響するため事前調整する。
- ウ. 危機時の連絡先を具体化する。
- エ. 環境・支援体制も治療対象である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「退院後に困ってから考える」に対応する説明で、判断対象「本人の希望を聞き、地域活動支援センター等の居場所や相談先を退院前につなぐ」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「本人の希望を聞き、地域活動支援センター等の居場所や相談先を退院前につなぐ」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「支援者との連絡方法を決めない」に対応する説明で、判断対象「本人の希望を聞き、地域活動支援センター等の居場所や相談先を退院前につなぐ」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「孤立は本人の問題として扱う」に対応する説明で、判断対象「本人の希望を聞き、地域活動支援センター等の居場所や相談先を退院前につなぐ」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。社会的孤立と相談先不足は地域生活継続へ影響するため事前調整する。判断対象は「本人の希望を聞き、地域活動支援センター等の居場所や相談先を退院前につなぐ」。地域移行では住居だけでなく日中活動、相談、医療、家族・支援者とのつながりを整える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q101

発達障害作業療法 > 脳性麻痺・重症心身障害 | 標準

痙直型脳性麻痺児が座位で骨盤後傾し、両手遊びが不安定である。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「姿勢を無視する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 姿勢不安定のまま速度を上げてても操作性は改善しにくい。
- イ. 近位部の安定性は上肢操作の基盤となる。
- ウ. 遊びを利用して機能と参加を支援する。
- エ. 座位姿勢は作業遂行へ大きく影響する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「上肢だけを高速で動かす」に対応する説明で、判断対象「姿勢を無視する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「骨盤・体幹を安定させ、両手を使いやすい座位環境を整える」に対応する説明で、判断対象「姿勢を無視する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「遊びを中止する」に対応する説明で、判断対象「姿勢を無視する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「姿勢を無視する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。座位姿勢は作業遂行へ大きく影響する。判断対象は「姿勢を無視する」。脳性麻痺児では姿勢、上肢機能、視覚、認知、環境を統合して遊びやADLを支援する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q102

発達障害作業療法 > 脳性麻痺・重症心身障害 | 標準

痙直型脳性麻痺児で股・膝屈曲姿勢が長時間続いている。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「日常の姿勢変換や適切な座位・立位を取り入れ、関節可動域と疼痛を確認する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 固定姿勢は拘縮リスクを高める。
- イ. 成長期は筋短縮や変形を予防するため日常的な姿勢管理が重要である。
- ウ. 過度な伸張は疼痛や防御反応を招く。
- エ. 予防的介入が重要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「一日中同じ姿勢を保つ」に対応する説明で、判断対象「日常の姿勢変換や適切な座位・立位を取り入れ、関節可動域と疼痛を確認する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「日常の姿勢変換や適切な座位・立位を取り入れ、関節可動域と疼痛を確認する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「痛みを無視して強く伸ばす」に対応する説明で、判断対象「日常の姿勢変換や適切な座位・立位を取り入れ、関節可動域と疼痛を確認する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「拘縮ができるまで対応しない」に対応する説明で、判断対象「日常の姿勢変換や適切な座位・立位を取り入れ、関節可動域と疼痛を確認する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。成長期は筋短縮や変形を予防するため日常的な姿勢管理が重要である。判断対象は「日常の姿勢変換や適切な座位・立位を取り入れ、関節可動域と疼痛を確認する」。二次障害予防は訓練時間だけでなく、学校・家庭での姿勢と活動時間を含めて考える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q103

発達障害作業療法 > 脳性麻痺・重症心身障害 | 標準

発語がなく随意運動が少ない重症心身障害児の活動反応を評価する方法として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「発語がないので反応なしと判断する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 家族は普段の反応を知る重要な情報源である。
- イ. 微細な反応が快・不快や興味を示す手掛かりとなる。
- ウ. 変化を比較することが重要である。
- エ. 非言語的反応を評価する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「家族からの情報を使わない」に対応する説明で、判断対象「発語がないので反応なしと判断する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「視線、表情、呼吸、筋緊張など微細な変化を継続的に観察する」に対応する説明で、判断対象「発語がないので反応なしと判断する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「活動前後を比較しない」に対応する説明で、判断対象「発語がないので反応なしと判断する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「発語がないので反応なしと判断する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。非言語的反応を評価する。判断対象は「発語がないので反応なしと判断する」。重症心身障害では小さな反応を読み取り、本人が選べる活動条件を作る。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q104

発達障害作業療法 > 脳性麻痺・重症心身障害 | 応用

重症心身障害児が仰臥位で呼吸が浅くなり、分泌物も増える。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「呼吸状態を確認し、側臥位など排痰や換気を助ける姿勢を医療チームと検討する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 誤嚥リスクを考慮する。
- イ. 全身管理が優先される。
- ウ. 姿勢変換が有効な場合がある。
- エ. 呼吸・嚥下状態を踏まえたポジショニングが必要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「分泌物があっても食事を急ぐ」に対応する説明で、判断対象「呼吸状態を確認し、側臥位など排痰や換気を助ける姿勢を医療チームと検討する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「呼吸状態を確認しない」に対応する説明で、判断対象「呼吸状態を確認し、側臥位など排痰や換気を助ける姿勢を医療チームと検討する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「同じ姿勢を続ける」に対応する説明で、判断対象「呼吸状態を確認し、側臥位など排痰や換気を助ける姿勢を医療チームと検討する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「呼吸状態を確認し、側臥位など排痰や換気を助ける姿勢を医療チームと検討する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。呼吸・嚥下状態を踏まえたポジショニングが必要である。判断対象は「呼吸状態を確認し、側臥位など排痰や換気を助ける姿勢を医療チームと検討する」。重症心身障害児では姿勢調整が呼吸、嚥下、覚醒、活動参加へ影響する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q105

発達障害作業療法 > 脳性麻痺・重症心身障害 | 基礎

片側上肢の使用が少ない脳性麻痺児への遊びとして適切なのはどれか。この論点で、選択肢「玩具を本人から遠ざける」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 遊びは小児作業療法の重要な作業である。
- イ. 不使用を強める可能性がある。
- ウ. 遊びの中で自然に麻痺側上肢の使用機会を増やせる。
- エ. 参加しにくくなる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「遊びを訓練と無関係と考える」に対応する説明で、判断対象「玩具を本人から遠ざける」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「得意側の手だけを使わせる」に対応する説明で、判断対象「玩具を本人から遠ざける」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「両手で持つ大きな玩具を使い、麻痺側上肢も参加しやすくする」に対応する説明で、判断対象「玩具を本人から遠ざける」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「玩具を本人から遠ざける」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。参加しにくくなる。判断対象は「玩具を本人から遠ざける」。小児では反復練習を遊びへ組み込み、本人の自発性を保つことが重要である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q106

発達障害作業療法 > 脳性麻痺・重症心身障害 | 応用

脳性麻痺児の家族が『一人で食事できるようになってほしい』と希望している。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「現在の姿勢・上肢機能・食具操作を評価し、家庭で実行可能な段階目標を家族と共有する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 機能目標を作業目標へ結び付ける。
- イ. 生活目標を細分化し家庭での実践へつなげる。
- ウ. 家族中心支援が重要である。
- エ. 達成可能な段階づけが必要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「訓練室の筋力だけを目標にする」に対応する説明で、判断対象「現在の姿勢・上肢機能・食具操作を評価し、家庭で実行可能な段階目標を家族と共有する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「現在の姿勢・上肢機能・食具操作を評価し、家庭で実行可能な段階目標を家族と共有する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「家族の希望を聞かない」に対応する説明で、判断対象「現在の姿勢・上肢機能・食具操作を評価し、家庭で実行可能な段階目標を家族と共有する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「一度に完全自立だけを目標にする」に対応する説明で、判断対象「現在の姿勢・上肢機能・食具操作を評価し、家庭で実行可能な段階目標を家族と共有する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。生活目標を細分化し家庭での実践へつなげる。判断対象は「現在の姿勢・上肢機能・食具操作を評価し、家庭で実行可能な段階目標を家族と共有する」。小児作業療法では家族の生活と本人の発達段階を考慮して目標を設定する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q107

発達障害作業療法 > ASD・ADHD・学習障害 | 基礎

ASD児が活動の切り替えて混乱しやすい。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「混乱を叱る」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 特性に合わせて環境調整する。
- イ. 予測困難さを増やす。
- ウ. 言語処理負荷が高い場合がある。
- エ. 視覚の手掛かりで見通しを持ちやすくできる。

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「混乱を叱る」が誤答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「予定変更を説明せず突然行う」に対応する説明で、判断対象「混乱を叱る」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「指示を毎回長く口頭だけで伝える」に対応する説明で、判断対象「混乱を叱る」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「写真や予定表で次の活動が見える化する」に対応する説明で、判断対象「混乱を叱る」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。特性に合わせて環境調整する。判断対象は「混乱を叱る」。ASDでは予測可能性と構造化が活動参加を安定させることがある。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q108

発達障害作業療法 > ASD・ADHD・学習障害 | 標準

ASD児が電車に強い興味を持ち、他の課題には参加しにくい。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「電車への興味を教材や遊びへ取り入れ、参加の入口として利用する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 活動参加へ利用できる。
- イ. 強い興味は動機づけや学習の手掛かりとして活用できる。
- ウ. 失敗や拒否を増やし得る。
- エ. 本人の強みを失う。

答え・4肢解説

正答：イ

- ア：誤り。これは別の選択肢「興味は治療と無関係とする」に対応する説明で、判断対象「電車への興味を教材や遊びへ取り入れ、参加の入口として利用する」の直接の根拠ではない。
- イ：正しい。これは判断対象「電車への興味を教材や遊びへ取り入れ、参加の入口として利用する」が正答となる理由を直接説明している。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「苦手な活動だけを連続させる」に対応する説明で、判断対象「電車への興味を教材や遊びへ取り入れ、参加の入口として利用する」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「興味を完全に禁止する」に対応する説明で、判断対象「電車への興味を教材や遊びへ取り入れ、参加の入口として利用する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。強い興味は動機づけや学習の手掛かりとして活用できる。判断対象は「電車への興味を教材や遊びへ取り入れ、参加の入口として利用する」。発達障害作業療法では問題行動だけでなく、興味・得意さを支援資源として用いる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q109

発達障害作業療法 > ASD・ADHD・学習障害 | 標準

ASD児が掃除機の声で耳を塞ぎ授業に参加できない。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「反応を無視する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 本人の反応を評価する。
- イ. 過剰刺激は苦痛を増やす。
- ウ. 感覚特性に合わせて環境を調整し参加を支える。
- エ. 代替手段を検討する。

答え・4肢解説

正答：ア

- ア：正しい。これは判断対象「反応を無視する」が誤答となる理由を直接説明している。
- イ：誤り。これは別の選択肢「慣れさせるため至近距離で大音量を続ける」に対応する説明で、判断対象「反応を無視する」の直接の根拠ではない。
- ウ：誤り。これは別の選択肢「音の強さや予告方法を調整し、必要に応じてイヤーマフ等を検討する」に対応する説明で、判断対象「反応を無視する」の直接の根拠ではない。
- エ：誤り。これは別の選択肢「授業参加を永久に禁止する」に対応する説明で、判断対象「反応を無視する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。本人の反応を評価する。判断対象は「反応を無視する」。感覚過敏への支援は刺激を一律に除去するのではなく、本人が調整可能な環境を作る。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q110

発達障害作業療法 > ASD・ADHD・学習障害 | 基礎

ADHD児が宿題中に注意がそれで最後まで終えにくい。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「課題を短い区切りにし、終了が分かるチェック表を使う」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 不要刺激を増やす。
- イ. 注意持続が難しくなる。
- ウ. 課題構造化と視覚的進捗管理は注意維持を支える。
- エ. 肯定的な行動支援を行う。

答え・4肢解説

正答：ウ

- ア：誤り。これは別の選択肢「机上に玩具を多数置く」に対応する説明で、判断対象「課題を短い区切りにし、終了が分かるチェック表を使う」の直接の根拠ではない。
- イ：誤り。これは別の選択肢「長時間の課題を休憩なしで行う」に対応する説明で、判断対象「課題を短い区切りにし、終了が分かるチェック表を使う」の直接の根拠ではない。
- ウ：正しい。これは判断対象「課題を短い区切りにし、終了が分かるチェック表を使う」が正答となる理由を直接説明している。
- エ：誤り。これは別の選択肢「失敗するたび叱る」に対応する説明で、判断対象「課題を短い区切りにし、終了が分かるチェック表を使う」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。課題構造化と視覚的進捗管理は注意維持を支える。判断対象は「課題を短い区切りにし、終了が分かるチェック表を使う」。ADHDでは環境刺激、課題時間、休憩、報酬のタイミングを調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q111

発達障害作業療法 > ASD・ADHD・学習障害 | 標準

ADHD児が集団ゲームで順番を待てず割り込む。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「ルールを毎回変更する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 予測可能性を下げる。
- イ. 予測可能なルールと即時の肯定的強化が行動学習を助ける。
- ウ. 支援付き参加を検討する。
- エ. 叱責だけでは技能を学びにくい。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「ルールを毎回変更する」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「順番を視覚表示し、待てた時に具体的な肯定的フィードバックを行う」に対応する説明で、判断対象「ルールを毎回変更する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「集団活動から永久に除外する」に対応する説明で、判断対象「ルールを毎回変更する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「割り込むたび長時間叱る」に対応する説明で、判断対象「ルールを毎回変更する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。予測可能性を下げる。判断対象は「ルールを毎回変更する」。衝動性への支援では『待つ』『交代する』など具体的技能を練習する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q112

発達障害作業療法 > ASD・ADHD・学習障害 | 標準

知的能力は保たれているが、読みの正確さが著しく低く学習が遅れる児への支援として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「音声読み上げや文字拡大など学習アクセスを補う方法を検討する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 特定の学習困難に対して代替的な情報入力手段を活用する。
- イ. 学習参加を支える方法を検討する。
- ウ. 学習障害は努力不足だけでは説明できない。
- エ. 適切な合理的配慮が必要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「音声読み上げや文字拡大など学習アクセスを補う方法を検討する」が正答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「読む課題を全て禁止する」に対応する説明で、判断対象「音声読み上げや文字拡大など学習アクセスを補う方法を検討する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「努力不足と決めつける」に対応する説明で、判断対象「音声読み上げや文字拡大など学習アクセスを補う方法を検討する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「支援なしで同じ課題量だけ増やす」に対応する説明で、判断対象「音声読み上げや文字拡大など学習アクセスを補う方法を検討する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。特定の学習困難に対して代替的な情報入力手段を活用する。判断対象は「音声読み上げや文字拡大など学習アクセスを補う方法を検討する」。学習障害では苦手技能の訓練と、学習内容へアクセスするための代償手段を併用する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q113

発達障害作業療法 > ASD・ADHD・学習障害 | 応用

学童が板書だけ極端に遅い。最も適切な評価はどれか。この論点で、選択肢「板書を永久に禁止する」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 代替手段と必要な練習を検討する。
- イ. 機能面と環境面を評価する。
- ウ. 握力だけでは説明できない。
- エ. 書字は運動・視知覚・言語・注意など複数機能を必要とする。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「板書を永久に禁止する」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「本人のやる気だけを評価する」に対応する説明で、判断対象「板書を永久に禁止する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「握力だけで原因を決める」に対応する説明で、判断対象「板書を永久に禁止する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「手指操作、視覚探索、文字認識、注意、書字速度など複数要因を評価する」に対応する説明で、判断対象「板書を永久に禁止する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。代替手段と必要な練習を検討する。判断対象は「板書を永久に禁止する」。学校作業の困難は課題分析を行い、どの工程で負荷が高いかを特定する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q114

発達障害作業療法 > ASD・ADHD・学習障害 | 応用

発達障害児への学校での合理的配慮として最も適切なものはどれか。この論点で、選択肢「本人の困難と授業目標を踏まえ、座席・教材・時間・回答方法などを個別調整する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 必要な配慮は本人の機能と課題・環境の関係から決める。
- イ. 同じ診断でもニーズは異なる。
- ウ. 公平性は同一対応ではなく必要な調整を含む。
- エ. 参加機会を保障する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「本人の困難と授業目標を踏まえ、座席・教材・時間・回答方法などを個別調整する」が正答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「診断名だけで配慮内容を決める」に対応する説明で、判断対象「本人の困難と授業目標を踏まえ、座席・教材・時間・回答方法などを個別調整する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「全児に同じ方法だけを強制する」に対応する説明で、判断対象「本人の困難と授業目標を踏まえ、座席・教材・時間・回答方法などを個別調整する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「困難があれば授業参加を禁止する」に対応する説明で、判断対象「本人の困難と授業目標を踏まえ、座席・教材・時間・回答方法などを個別調整する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。必要な配慮は本人の機能と課題・環境の関係から決める。判断対象は「本人の困難と授業目標を踏まえ、座席・教材・時間・回答方法などを個別調整する」。作業療法士は学校作業を分析し、教員・家族と実行可能な配慮を検討する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q115

発達障害作業療法 > 感覚統合 | 基礎

感覚処理を評価する際に最も重要なのはどれか。この論点で、選択肢「一種類の刺激だけで全体を判断する」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 複数感覚と環境条件を見る。
- イ. 本人の快・不快や選択が重要である。
- ウ. 感覚反応は作業遂行への影響と関連づけて評価する。
- エ. 感覚特性だけで診断を確定しない。

OT05 Q116

発達障害作業療法 > 感覚統合 | 標準

遊具上で姿勢保持が難しい児に感覚運動活動を行う際に適切なものはどれか。この論点で、選択肢「児が安全に予測できる範囲で姿勢反応を引き出す活動を段階づける」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 刺激量は児の反応と安全性に合わせて調整する。
- イ. 過剰な前庭刺激は不快・自律神経症状を招くことがある。
- ウ. 行動・表情・覚醒を観察する。
- エ. 反応に応じた段階づけが必要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「一種類の刺激だけで全体を判断する」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「本人の好みを無視する」に対応する説明で、判断対象「一種類の刺激だけで全体を判断する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「刺激への反応が遊び・食事・着替え・学校参加へどう影響するかを見る」に対応する説明で、判断対象「一種類の刺激だけで全体を判断する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「感覚反応だけで診断を確定する」に対応する説明で、判断対象「一種類の刺激だけで全体を判断する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。複数感覚と環境条件を見る。判断対象は「一種類の刺激だけで全体を判断する」。感覚統合領域では感覚特性そのものより、参加を妨げる条件と助ける条件を具体化する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「児が安全に予測できる範囲で姿勢反応を引き出す活動を段階づける」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「恐怖が強くても高速回転を続ける」に対応する説明で、判断対象「児が安全に予測できる範囲で姿勢反応を引き出す活動を段階づける」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「児の反応を観察しない」に対応する説明で、判断対象「児が安全に予測できる範囲で姿勢反応を引き出す活動を段階づける」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「毎回同じ最大刺激を与える」に対応する説明で、判断対象「児が安全に予測できる範囲で姿勢反応を引き出す活動を段階づける」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。刺激量は児の反応と安全性に合わせて調整する。判断対象は「児が安全に予測できる範囲で姿勢反応を引き出す活動を段階づける」。感覚運動活動は刺激を与えること自体ではなく、適応的な姿勢・行動反応を支えるために用いる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q117

発達障害作業療法 > 感覚統合 | 標準

粘土に触れることを強く嫌がる児への対応として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「嫌がる反応を無視する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 強制は不安を増やす。
- イ. 反応は調整の重要な情報である。
- ウ. 本人のコントロール感を保ち、許容範囲から経験を広げる。
- エ. 必要に応じて安全な参加方法を探る。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「手を押さえて長時間触らせる」に対応する説明で、判断対象「嫌がる反応を無視する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「嫌がる反応を無視する」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「道具を介して触るなど本人が許容できる方法から段階づける」に対応する説明で、判断対象「嫌がる反応を無視する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「触覚活動を永久に禁止する」に対応する説明で、判断対象「嫌がる反応を無視する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。反応は調整の重要な情報である。判断対象は「嫌がる反応を無視する」。感覚過敏への介入では強制的な刺激ではなく、予測可能性と選択肢を重視する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q118

発達障害作業療法 > 感覚統合 | 標準

児が教室で頻繁に椅子から飛び降り、強い身体刺激を求めている。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「休み時間に押す・運ぶ等の安全な全身活動を取り入れ、授業中の行動変化を観察する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 危険性を高める。
- イ. 安全リスクがある。
- ウ. 安全な活動へ置き換え、覚醒と参加への効果を確認する。
- エ. 必要な運動機会を調整する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「さらに高い場所から飛ばせる」に対応する説明で、判断対象「休み時間に押す・運ぶ等の安全な全身活動を取り入れ、授業中の行動変化を観察する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「危険行動を無視する」に対応する説明で、判断対象「休み時間に押す・運ぶ等の安全な全身活動を取り入れ、授業中の行動変化を観察する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「休み時間に押す・運ぶ等の安全な全身活動を取り入れ、授業中の行動変化を観察する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「一日中座らせて動きを禁止する」に対応する説明で、判断対象「休み時間に押す・運ぶ等の安全な全身活動を取り入れ、授業中の行動変化を観察する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。安全な活動へ置き換え、覚醒と参加への効果を確認する。判断対象は「休み時間に押す・運ぶ等の安全な全身活動を取り入れ、授業中の行動変化を観察する」。感覚探索行動は『刺激を与えればよい』とせず、行動機能と授業参加への影響を評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q119

発達障害作業療法 > 感覚統合 | 応用

感覚刺激を用いた介入の効果判定として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「感覚反応だけを記録し生活変化を見ない」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 本人の反応と同意可能性を考慮する。
- イ. 介入の目的は作業遂行・参加の改善である。
- ウ. 生活アウトカムへ結び付ける。
- エ. 実施量だけでは臨床効果を判断できない。

OT05 Q120

発達障害作業療法 > 遊び・学校・家族支援 | 基礎

小児作業療法で遊びを用いる理由として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「子どもの主要な作業であり、運動・認知・社会性を自然に引き出せる」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 治療・評価の重要な媒体である。
- イ. 遊び方から多くの情報が得られる。
- ウ. 子どもの自発性を活用する。
- エ. 遊びは発達と参加を促す中心的な作業である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「児が嫌がっても継続する」に対応する説明で、判断対象「感覚反応だけを記録し生活変化を見ない」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「刺激後に着替えや授業参加など目標作業が改善したかを確認する」に対応する説明で、判断対象「感覚反応だけを記録し生活変化を見ない」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「感覚反応だけを記録し生活変化を見ない」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「刺激を実施した回数だけで効果を決める」に対応する説明で、判断対象「感覚反応だけを記録し生活変化を見ない」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。生活アウトカムへ結び付ける。判断対象は「感覚反応だけを記録し生活変化を見ない」。感覚統合的介入も、最終的には本人にとって重要な活動と参加の変化で評価する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「訓練とは無関係だから」に対応する説明で、判断対象「子どもの主要な作業であり、運動・認知・社会性を自然に引き出せる」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「遊びでは評価できないため」に対応する説明で、判断対象「子どもの主要な作業であり、運動・認知・社会性を自然に引き出せる」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「大人が決めた課題だけを行わせるため」に対応する説明で、判断対象「子どもの主要な作業であり、運動・認知・社会性を自然に引き出せる」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「子どもの主要な作業であり、運動・認知・社会性を自然に引き出せる」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。遊びは発達と参加を促す中心的な作業である。判断対象は「子どもの主要な作業であり、運動・認知・社会性を自然に引き出せる」。遊びは目的でも手段でもあり、年齢・興味・発達水準に合わせて選ぶ。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q121

発達障害作業療法 > 遊び・学校・家族支援 | 標準

授業中の書字で疲労が強い児への支援として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「学校生活を作業療法と無関係とする」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 学校作業と環境を直接調整する。
- イ. 持続可能な学習参加を支援する。
- ウ. 学校は主要な生活場面である。
- エ. 教員との連携が重要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「教員と相談し、板書量・休憩・タブレット使用などを調整する」に対応する説明で、判断対象「学校生活を作業療法と無関係とする」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「疲労を無視する」に対応する説明で、判断対象「学校生活を作業療法と無関係とする」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「学校生活を作業療法と無関係とする」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「家庭だけで対応する」に対応する説明で、判断対象「学校生活を作業療法と無関係とする」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。学校は主要な生活場面である。判断対象は「学校生活を作業療法と無関係とする」。小児作業療法では訓練室での能力を学校で使える形へつなげる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q122

発達障害作業療法 > 遊び・学校・家族支援 | 応用

家庭で毎日30分の訓練を提案したが、保護者は仕事ときょうだいで対応で困難と話している。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「家庭生活に組み込みやすい短い活動へ調整し、家族と実行可能な方法を相談する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 家族の時間・負担を考慮した支援が継続につながる。
- イ. 実行可能性を重視する。
- ウ. 家庭環境は重要な要因である。
- エ. 家族との協働を損なう。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「家庭生活に組み込みやすい短い活動へ調整し、家族と実行可能な方法を相談する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「提案内容を変更しない」に対応する説明で、判断対象「家庭生活に組み込みやすい短い活動へ調整し、家族と実行可能な方法を相談する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「家庭状況を評価しない」に対応する説明で、判断対象「家庭生活に組み込みやすい短い活動へ調整し、家族と実行可能な方法を相談する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「できない家族を責める」に対応する説明で、判断対象「家庭生活に組み込みやすい短い活動へ調整し、家族と実行可能な方法を相談する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。家族の時間・負担を考慮した支援が継続につながる。判断対象は「家庭生活に組み込みやすい短い活動へ調整し、家族と実行可能な方法を相談する」。家族支援では家庭を『訓練者』にするのではなく、日常生活の中で無理なく発達を支える方法を共同で考える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q123

老年期・内部障害・がん > 認知症 | 基礎

認知症患者が洗面手順の一部を忘れるが、道具を見ると動作を始められる。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「道具を見えない場所へ片づける」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 環境手掛かりを使い残存能力を生かす。
- イ. 不安や混乱を増やす。
- ウ. 視覚的手掛かりを失う。
- エ. 過介助は自立機会を減らす。

OT05 Q124

老年期・内部障害・がん > 認知症 | 標準

病棟内で自室を間違えやすい認知症患者への環境調整として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「本人になじみのある写真や分かりやすい表示を自室前に置く」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 環境の一貫性を損なう。
- イ. 見当識を支える情報が減る。
- ウ. 意味のある視覚的手掛かりは場所の識別を助ける。
- エ. 理解しやすさを優先する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「洗面道具を使う順に配置し、必要な部分だけ手掛かりを出す」に対応する説明で、判断対象「道具を見えない場所へ片づける」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「失敗するたび叱る」に対応する説明で、判断対象「道具を見えない場所へ片づける」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「道具を見えない場所へ片づける」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「全工程を介助者が代行する」に対応する説明で、判断対象「道具を見えない場所へ片づける」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。視覚的手掛かりを失う。判断対象は「道具を見えない場所へ片づける」。認知症作業療法では『できない部分』だけを補い、本人が行える工程を維持する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「毎日部屋を変更する」に対応する説明で、判断対象「本人になじみのある写真や分かりやすい表示を自室前に置く」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「表示を全てなくす」に対応する説明で、判断対象「本人になじみのある写真や分かりやすい表示を自室前に置く」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「本人になじみのある写真や分かりやすい表示を自室前に置く」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「複雑な文字情報を増やす」に対応する説明で、判断対象「本人になじみのある写真や分かりやすい表示を自室前に置く」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。意味のある視覚的手掛かりは場所の識別を助ける。判断対象は「本人になじみのある写真や分かりやすい表示を自室前に置く」。認知症では環境の分かりやすさと一貫性を高めることが自立と安心へつながる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q125

老年期・内部障害・がん > 認知症 | 標準

夕方になると『家に帰る』と言って玄関へ向かう認知症患者への対応として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「毎回叱る」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 出現パターン把握が介入に役立つ。
- イ. 拘束は最小限とし代替策を検討する。
- ウ. BPSDは身体・心理・環境要因との関係性を評価する。
- エ. 不安や興奮を増やす可能性がある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「行動記録を取らない」に対応する説明で、判断対象「毎回叱る」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「徘徊と決めつけて直ちに拘束する」に対応する説明で、判断対象「毎回叱る」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「疲労、排泄、空腹、不安、時間帯など行動の背景を確認する」に対応する説明で、判断対象「毎回叱る」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「毎回叱る」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。不安や興奮を増やす可能性がある。判断対象は「毎回叱る」。行動を止めることだけでなく、その人にとって行動が何を意味するかを考える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q126

老年期・内部障害・がん > 認知症 | 標準

回想法を行う際に最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「本人が大切にしてきた写真や音楽を用い、肯定的な語りを引き出す」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 事実訂正より安心と交流を優先する場面がある。
- イ. 生活史は個性が高い。
- ウ. 本人の選択を尊重する。
- エ. なじみのある刺激を用い、その人らしい経験を尊重する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「記憶の誤りを毎回厳密に訂正する」に対応する説明で、判断対象「本人が大切にしてきた写真や音楽を用い、肯定的な語りを引き出す」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「全員に同じ思い出を語らせる」に対応する説明で、判断対象「本人が大切にしてきた写真や音楽を用い、肯定的な語りを引き出す」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「話したくない体験を強制的に聞く」に対応する説明で、判断対象「本人が大切にしてきた写真や音楽を用い、肯定的な語りを引き出す」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「本人が大切にしてきた写真や音楽を用い、肯定的な語りを引き出す」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。なじみのある刺激を用い、その人らしい経験を尊重する。判断対象は「本人が大切にしてきた写真や音楽を用い、肯定的な語りを引き出す」。回想法は記憶検査ではなく、自己同一性・感情・対人交流を支える活動として用いる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q127

老年期・内部障害・がん > 認知症 | 標準

認知症患者が以前は園芸を好んでいたが、複雑な手順は難しい。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「興味と無関係な課題だけを行う」を誤答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 本人の興味は参加に重要である。
- イ. 意味ある作業を生かす。
- ウ. なじみのある作業を簡略化し成功可能性を高める。
- エ. 失敗や危険が増える。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「興味と無関係な課題だけを行う」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「園芸を禁止する」に対応する説明で、判断対象「興味と無関係な課題だけを行う」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「水やりや鉢へ土を入れるなど一工程の活動へ分ける」に対応する説明で、判断対象「興味と無関係な課題だけを行う」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「複雑な植え替えを一人で任せる」に対応する説明で、判断対象「興味と無関係な課題だけを行う」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。本人の興味は参加に重要である。判断対象は「興味と無関係な課題だけを行う」。認知症への活動は、意味・習慣・能力に応じて手順数や道具を調整する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q128

老年期・内部障害・がん > 認知症 | 応用

家族が『同じ質問を何度もされて疲れた』と訴える。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「反復質問の背景を説明し、メモや日課表など対応方法と家族の休息支援を検討する」を正答と判断する根拠として最も適切なものはどれか。

- ア. 家族は生活環境の重要な一部である。
- イ. 家族の負担評価が必要である。
- ウ. 本人への環境支援と介護者負担の軽減を両方検討する。
- エ. 不安を増やす可能性がある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「家族負担は作業療法と無関係とする」に対応する説明で、判断対象「反復質問の背景を説明し、メモや日課表など対応方法と家族の休息支援を検討する」の直接の根拠ではない。
イ：誤り。これは別の選択肢「我慢するよう家族へだけ求める」に対応する説明で、判断対象「反復質問の背景を説明し、メモや日課表など対応方法と家族の休息支援を検討する」の直接の根拠ではない。
ウ：正しい。これは判断対象「反復質問の背景を説明し、メモや日課表など対応方法と家族の休息支援を検討する」が正答となる理由を直接説明している。
エ：誤り。これは別の選択肢「本人を叱るよう勧める」に対応する説明で、判断対象「反復質問の背景を説明し、メモや日課表など対応方法と家族の休息支援を検討する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。本人への環境支援と介護者負担の軽減を両方検討する。判断対象は「反復質問の背景を説明し、メモや日課表など対応方法と家族の休息支援を検討する」。認知症支援では本人と家族の双方が継続可能な生活方法を整える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q129

老年期・内部障害・がん > 認知症 | 基礎

進行した認知症で長い会話は難しいが、好きだった音楽には表情変化がみられる。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「反応が小さいので無意味とする」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 疲労や不快を避ける。
- イ. 重度認知症でも感情反応や快適性を基に意味ある活動を提供できる。
- ウ. 活動参加の可能性は残る。
- エ. 微細な反応を評価する。

OT05 Q130

老年期・内部障害・がん > フレイル・廃用 | 標準

フレイル高齢者への作業療法として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「筋力・バランス活動に加え、食事や外出・社会参加も含めて支援する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 生活全体をみる。
- イ. 社会参加も重要な要素である。
- ウ. 廃用を助長する。
- エ. フレイルは身体・栄養・社会面を含むため多面的介入が重要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「苦痛があっても長時間続ける」に対応する説明で、判断対象「反応が小さいので無意味とする」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「覚醒・呼吸・表情を観察しながら好きな音楽を短時間取り入れる」に対応する説明で、判断対象「反応が小さいので無意味とする」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「認知機能が低いので活動を全て中止する」に対応する説明で、判断対象「反応が小さいので無意味とする」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「反応が小さいので無意味とする」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。微細な反応を評価する。判断対象は「反応が小さいので無意味とする」。治療目標は病期に応じて自立獲得から快適性・交流・尊厳の維持へ変化する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「筋力だけを評価する」に対応する説明で、判断対象「筋力・バランス活動に加え、食事や外出・社会参加も含めて支援する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「社会参加を避ける」に対応する説明で、判断対象「筋力・バランス活動に加え、食事や外出・社会参加も含めて支援する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「ベッド上安静を中心とする」に対応する説明で、判断対象「筋力・バランス活動に加え、食事や外出・社会参加も含めて支援する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「筋力・バランス活動に加え、食事や外出・社会参加も含めて支援する」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。フレイルは身体・栄養・社会面を含むため多面的介入が重要である。判断対象は「筋力・バランス活動に加え、食事や外出・社会参加も含めて支援する」。フレイル支援では日常の活動量と役割を増やし、持続可能な生活習慣へつなげる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q131

老年期・内部障害・がん > フレイル・廃用 | 基礎

肺炎後に1週間ほぼ臥床していた高齢者への対応として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「食事も全介助に固定する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 医学的に可能な範囲で早期に活動を再開し廃用を防ぐ。
- イ. 本人ができる工程を活用する。
- ウ. 負荷調整に重要である。
- エ. 筋力・持久力低下を助長する。

OT05 Q132

老年期・内部障害・がん > フレイル・廃用 | 基礎

退院後の高齢者が『また近所の店へ買い物に行きたい』と希望する。歩行耐久性は低い。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「店までの距離や休憩場所を確認し、段階的な歩行・買い物練習を行う」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 完全回復を待つ必要はない。
- イ. 地域生活への汎化が必要である。
- ウ. 本人中心の目標設定を行う。
- エ. 実際の参加目標へ必要な体力と環境を具体化する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「全身状態を確認しながら座位・立位・ADLを段階的に再開する」に対応する説明で、判断対象「食事も全介助に固定する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「食事も全介助に固定する」が誤答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「活動前後の疲労を確認しない」に対応する説明で、判断対象「食事も全介助に固定する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「さらに長期安静を続ける」に対応する説明で、判断対象「食事も全介助に固定する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。本人ができる工程を活用する。判断対象は「食事も全介助に固定する」。高齢者では短期間の不活動でも機能低下が進みやすく、日常生活そのものを活動機会にする。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「筋力が完全正常になるまで外出を禁止する」に対応する説明で、判断対象「店までの距離や休憩場所を確認し、段階的な歩行・買い物練習を行う」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「病棟内歩行だけを目標にする」に対応する説明で、判断対象「店までの距離や休憩場所を確認し、段階的な歩行・買い物練習を行う」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「本人の希望を目標へ入れない」に対応する説明で、判断対象「店までの距離や休憩場所を確認し、段階的な歩行・買い物練習を行う」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「店までの距離や休憩場所を確認し、段階的な歩行・買い物練習を行う」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。実際の参加目標へ必要な体力と環境を具体化する。判断対象は「店までの距離や休憩場所を確認し、段階的な歩行・買い物練習を行う」。フレイルからの回復では身体機能改善を本人が再開したい役割へ結び付ける。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q133

老年期・内部障害・がん > COPD・心疾患等 | 標準

COPD患者が更衣で強く息切れする。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「息切れを無視する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

ア. 呼吸困難を悪化させる。

イ. 姿勢・速度・呼吸・休息を調整して換気需要を減らす。

ウ. 負荷が高くなりやすい。

エ. 症状は負荷調整の指標である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「息を止めて力む」に対応する説明で、判断対象「息切れを無視する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「座位で行い、動作を分けて呼吸に合わせてしながら休息を入れる」に対応する説明で、判断対象「息切れを無視する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「立位で急いで一気に行う」に対応する説明で、判断対象「息切れを無視する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「息切れを無視する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。症状は負荷調整の指標である。判断対象は「息切れを無視する」。COPDの作業療法では省エネルギーとペーシングを実際のADLへ組み込む。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q134

老年期・内部障害・がん > COPD・心疾患等 | 標準

息切れを恐れてほとんど外出しなくなったCOPD患者への支援として適切なのはどれか。この論点で、選択肢「症状をモニターしながら低負荷の歩行や生活活動を段階的に増やす」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

ア. 過度な不活動は耐容能をさらに低下させる。

イ. 段階的負荷が必要である。

ウ. 呼吸法やペーシングも活用する。

エ. 安全な身体活動は廃用と活動回避の悪循環を減らす。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「息切れがあるため活動を全て中止する」に対応する説明で、判断対象「症状をモニターしながら低負荷の歩行や生活活動を段階的に増やす」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「いきなり最大運動を行う」に対応する説明で、判断対象「症状をモニターしながら低負荷の歩行や生活活動を段階的に増やす」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「呼吸法を使わない」に対応する説明で、判断対象「症状をモニターしながら低負荷の歩行や生活活動を段階的に増やす」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「症状をモニターしながら低負荷の歩行や生活活動を段階的に増やす」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。安全な身体活動は廃用と活動回避の悪循環を減らす。判断対象は「症状をモニターしながら低負荷の歩行や生活活動を段階的に増やす」。肺リハビリテーションは運動、教育、呼吸法、自己管理を含む包括的支援である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q135

老年期・内部障害・がん > COPD・心疾患等 | 基礎

慢性心不全患者が数日で体重増加し、下腿浮腫と夜間呼吸困難が増えている。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「筋力低下とだけ考えて運動量を増やす」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 短期間の増加は体液貯留を考える。
- イ. 重要な悪化徴候である。
- ウ. 病状悪化時の過負荷は危険である。
- エ. 体液貯留によるうっ血悪化の可能性がある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「体重増加を筋肥大と判断する」に対応する説明で、判断対象「筋力低下とだけ考えて運動量を増やす」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「浮腫を無視する」に対応する説明で、判断対象「筋力低下とだけ考えて運動量を増やす」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「筋力低下とだけ考えて運動量を増やす」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「運動負荷を上げず、心不全悪化を疑って医療チームへ報告する」に対応する説明で、判断対象「筋力低下とだけ考えて運動量を増やす」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。病状悪化時の過負荷は危険である。判断対象は「筋力低下とだけ考えて運動量を増やす」。心疾患の作業療法では症状、体重、脈拍、血圧、浮腫などを自己管理へ結び付ける。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q136

老年期・内部障害・がん > COPD・心疾患等 | 基礎

心疾患患者が軽い家事は無症状だが、掃除機がけで息切れと動悸が強い。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「家事ごとの負荷を評価し、休息や分割、軽量機器などで負荷を調整する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 症状は中止・調整の重要な指標である。
- イ. 作業別のエネルギー負荷と循環反応を評価する。
- ウ. 家事の種類で負荷は異なる。
- エ. 負荷調整で参加を支える。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「症状が出ても続ける」に対応する説明で、判断対象「家事ごとの負荷を評価し、休息や分割、軽量機器などで負荷を調整する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「家事ごとの負荷を評価し、休息や分割、軽量機器などで負荷を調整する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「全家事を同じ負荷と考える」に対応する説明で、判断対象「家事ごとの負荷を評価し、休息や分割、軽量機器などで負荷を調整する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「家事を永久に禁止する」に対応する説明で、判断対象「家事ごとの負荷を評価し、休息や分割、軽量機器などで負荷を調整する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。作業別のエネルギー負荷と循環反応を評価する。判断対象は「家事ごとの負荷を評価し、休息や分割、軽量機器などで負荷を調整する」。内部障害の作業療法では日常作業の負荷を具体的に分析し、安全な活動範囲を広げる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q137

老年期・内部障害・がん > がん・緩和 | 基礎

がん治療中で強い倦怠感があり、午前中に家事をすると一日動けなくなる。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「倦怠感があるため終日臥床する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 過度な不活動は廃用を招く。
- イ. 疲労増悪につながる。
- ウ. 活動記録は負荷調整に有用である。
- エ. エネルギー保存とペーシングで重要な活動を維持する。

OT05 Q138

老年期・内部障害・がん > がん・緩和 | 基礎

脊椎への骨転移があり医師から荷重・動作制限が指示されている。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「病変部位と制限を確認し、骨折リスクを避けたADL方法を選ぶ」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 高負荷は危険となり得る。
- イ. 疼痛がなくても脆弱性がある場合がある。
- ウ. 骨転移では病的骨折や脊髄圧迫のリスクに配慮する。
- エ. 医学的制限の確認が必要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「倦怠感があるため終日臥床する」が誤答となる理由を直接説明している。
イ：誤り。これは別の選択肢「元気な時に全家事を一気に行う」に対応する説明で、判断対象「倦怠感があるため終日臥床する」の直接の根拠ではない。
ウ：誤り。これは別の選択肢「活動と疲労の関係を記録しない」に対応する説明で、判断対象「倦怠感があるため終日臥床する」の直接の根拠ではない。
エ：誤り。これは別の選択肢「優先する活動を決め、休息を計画的に入れて一日の活動を分散する」に対応する説明で、判断対象「倦怠感があるため終日臥床する」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。過度な不活動は廃用を招く。判断対象は「倦怠感があるため終日臥床する」。がん関連倦怠感は通常の疲労とは異なり日常機能へ大きく影響するため、活動量を計画する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「最大抵抗運動を行う」に対応する説明で、判断対象「病変部位と制限を確認し、骨折リスクを避けたADL方法を選ぶ」の直接の根拠ではない。
イ：誤り。これは別の選択肢「疼痛がなければ強いひねり運動を行う」に対応する説明で、判断対象「病変部位と制限を確認し、骨折リスクを避けたADL方法を選ぶ」の直接の根拠ではない。
ウ：正しい。これは判断対象「病変部位と制限を確認し、骨折リスクを避けたADL方法を選ぶ」が正答となる理由を直接説明している。
エ：誤り。これは別の選択肢「制限内容を確認しない」に対応する説明で、判断対象「病変部位と制限を確認し、骨折リスクを避けたADL方法を選ぶ」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。骨転移では病的骨折や脊髄圧迫のリスクに配慮する。判断対象は「病変部位と制限を確認し、骨折リスクを避けたADL方法を選ぶ」。がんリハビリテーションでは血球減少、骨転移、感染、倦怠感など治療関連リスクを確認する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q139

老年期・内部障害・がん > がん・緩和 | 標準

進行がんで体力が低下した患者が『孫へ手紙を書きたい』と希望している。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「筋力訓練だけを優先する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 緩和期では本人にとって価値ある活動を可能な形で実現する。
- イ. 本人の意思を尊重する。
- ウ. 意味ある活動はQOLへ重要である。
- エ. 機能改善だけが目標ではない。

OT05 Q140

老年期・内部障害・がん > がん・緩和 | 基礎

終末期で一日の覚醒時間が短くなった患者への作業療法として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「本人が最も大切にしている活動へ限られたエネルギーを配分する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 体力変化に合わせて優先作業へエネルギーを集中する。
- イ. 可能な意味ある活動を残す。
- ウ. 負担が利益を上回ることがある。
- エ. 症状緩和を優先する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「疲労の少ない時間に短時間でできる環境を整え、必要なら筆記具を工夫する」に対応する説明で、判断対象「筋力訓練だけを優先する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「本人の希望を家族だけで判断する」に対応する説明で、判断対象「筋力訓練だけを優先する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「体力低下を理由に中止する」に対応する説明で、判断対象「筋力訓練だけを優先する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「筋力訓練だけを優先する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。機能改善だけが目標ではない。判断対象は「筋力訓練だけを優先する」。緩和ケアでは症状負担を調整しながら、その人らしい役割や大切な作業を支える。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「本人が最も大切にしている活動へ限られたエネルギーを配分する」が正答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「全ての活動を中止する」に対応する説明で、判断対象「本人が最も大切にしている活動へ限られたエネルギーを配分する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「予定された訓練量を必ず消化する」に対応する説明で、判断対象「本人が最も大切にしている活動へ限られたエネルギーを配分する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「疲労を無視する」に対応する説明で、判断対象「本人が最も大切にしている活動へ限られたエネルギーを配分する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。体力変化に合わせて優先作業へエネルギーを集中する。判断対象は「本人が最も大切にしている活動へ限られたエネルギーを配分する」。終末期では『できる量を増やす』より、本人が望む時間をどう使うかが重要になる。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q141

治療学総論・リスク管理 > 治療プログラム立案 | 標準

退院まで2週間の患者に、軽度手指巧緻性低下、重度転倒リスク、服薬管理困難がある。最も適切な治療計画はどれか。この論点で、選択肢「3課題を同じ時間配分で扱う」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 退院後の生活条件を見据える必要がある。
- イ. 緊急性、安全性、本人の生活目標をもとに優先順位を決める。
- ウ. 臨床的優先度は同一ではない。
- エ. 検査値だけで優先順位は決まらない。

OT05 Q142

治療学総論・リスク管理 > 治療プログラム立案 | 基礎

『自宅で朝食を一人で準備する』という長期目標に対応する短期目標として最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「1週間以内に見守り下でトーストと飲み物を準備する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 観察可能な目標ではない。
- イ. 具体的な作業と条件が長期目標へ直接つながる。
- ウ. 検査値は手段であり生活目標と結び付ける必要がある。
- エ. 抽象的で達成基準が不明である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「退院後生活を考えない」に対応する説明で、判断対象「3課題を同じ時間配分で扱う」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「安全と退院後生活に直結する移動・服薬管理を優先し、手指訓練も目標に合わせて組み込む」に対応する説明で、判断対象「3課題を同じ時間配分で扱う」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「3課題を同じ時間配分で扱う」が誤答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「検査値が最も低い項目だけを扱う」に対応する説明で、判断対象「3課題を同じ時間配分で扱う」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。臨床的優先度は同一ではない。判断対象は「3課題を同じ時間配分で扱う」。治療計画は impairment の大きさではなく、生活への影響・安全・本人の希望・時間的制約を統合して立案する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「頑張って自立する」に対応する説明で、判断対象「1週間以内に見守り下でトーストと飲み物を準備する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「1週間以内に見守り下でトーストと飲み物を準備する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「検査点数を上げるだけ」に対応する説明で、判断対象「1週間以内に見守り下でトーストと飲み物を準備する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「上肢機能を良くする」に対応する説明で、判断対象「1週間以内に見守り下でトーストと飲み物を準備する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。具体的な作業と条件が長期目標へ直接つながる。判断対象は「1週間以内に見守り下でトーストと飲み物を準備する」。短期目標は長期目標を構成する具体的な作業行動へ分解して設定する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q143

治療学総論・リスク管理 > 治療プログラム立案 | 基礎

肩ROM改善後も更衣時間が変わらず、実際には衣服選択と手順混乱が目立った。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「新しい情報を無視する」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 効果が乏しい理由を分析する。
- イ. 介入結果が仮説を支持しない場合は原因仮説を見直す。
- ウ. 目標ではなく介入戦略を修正する。
- エ. 新しい観察所見を統合する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「ROM訓練だけを続ける」に対応する説明で、判断対象「新しい情報を無視する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「ROM制限が主因という仮説を修正し、認知・手順・衣服条件への介入を追加する」に対応する説明で、判断対象「新しい情報を無視する」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「更衣目標を削除する」に対応する説明で、判断対象「新しい情報を無視する」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「新しい情報を無視する」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。新しい観察所見を統合する。判断対象は「新しい情報を無視する」。治療プログラムは固定的ではなく、評価→介入→効果判定の循環で修正する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q144

治療学総論・リスク管理 > 治療プログラム立案 | 基礎

本人は『家に帰って犬の世話をしたい』と希望するが、チーム内では機能訓練目標だけが共有されている。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「犬の世話に必要な移動・餌やり・散歩等を分析し、本人の生活目標としてチームで共有する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 本人中心のリハビリテーションとならない。
- イ. 本人に意味のある作業を共通目標へ変換する。
- ウ. 目標の統合が重要である。
- エ. 生活場面の要求を評価する必要がある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「本人の希望は治療計画から外す」に対応する説明で、判断対象「犬の世話に必要な移動・餌やり・散歩等を分析し、本人の生活目標としてチームで共有する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「犬の世話に必要な移動・餌やり・散歩等を分析し、本人の生活目標としてチームで共有する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「各職種が別々の目標を立てる」に対応する説明で、判断対象「犬の世話に必要な移動・餌やり・散歩等を分析し、本人の生活目標としてチームで共有する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「機能検査結果だけで退院後生活を定める」に対応する説明で、判断対象「犬の世話に必要な移動・餌やり・散歩等を分析し、本人の生活目標としてチームで共有する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。本人に意味のある作業を共通目標へ変換する。判断対象は「犬の世話に必要な移動・餌やり・散歩等を分析し、本人の生活目標としてチームで共有する」。治療学では身体機能改善を、本人が再獲得したい活動・参加へ明確に結び付ける。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q145

治療学総論・リスク管理 > ポジショニング・関節保護・筋力等 | 標準

長時間臥床患者のポジショニングで重要なのはどれか。この論点で、選択肢「疼痛部へ圧を集中させる」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 褥瘡や拘縮リスクを高める。
- イ. 快適で安全な中間位を基本にする。
- ウ. 皮膚・関節・呼吸を含む全身状態を考えて姿勢を調整する。
- エ. 圧迫を避ける必要がある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「一日中同じ姿勢を保つ」に対応する説明で、判断対象「疼痛部へ圧を集中させる」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「関節を最大可動域で固定する」に対応する説明で、判断対象「疼痛部へ圧を集中させる」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「圧分散、関節アライメント、呼吸しやすさを確認して定期的に姿勢を変える」に対応する説明で、判断対象「疼痛部へ圧を集中させる」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「疼痛部へ圧を集中させる」が誤答となる理由を直接説明している。

要点

誤り。圧迫を避ける必要がある。判断対象は「疼痛部へ圧を集中させる」。ポジショニングは姿勢を整えるだけでなく、二次障害予防と活動準備の治療である。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q146

治療学総論・リスク管理 > ポジショニング・関節保護・筋力等 | 標準

手指関節痛がある患者が重い鍋を片手で運んでいる。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「両手で持つ、軽い鍋を使う、内容物を分けて運ぶなど負荷を分散する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 小関節へ負荷が集中する。
- イ. 必要に応じて道具を活用する。
- ウ. 力の分散と道具変更で関節負担を下げる。
- エ. 動作速度を上げても負荷軽減にならない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。これは別の選択肢「指先だけで強く把持する」に対応する説明で、判断対象「両手で持つ、軽い鍋を使う、内容物を分けて運ぶなど負荷を分散する」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「補助具を使わない」に対応する説明で、判断対象「両手で持つ、軽い鍋を使う、内容物を分けて運ぶなど負荷を分散する」の直接の根拠ではない。

ウ：正しい。これは判断対象「両手で持つ、軽い鍋を使う、内容物を分けて運ぶなど負荷を分散する」が正答となる理由を直接説明している。

エ：誤り。これは別の選択肢「痛みが強いほど速く運ぶ」に対応する説明で、判断対象「両手で持つ、軽い鍋を使う、内容物を分けて運ぶなど負荷を分散する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。力の分散と道具変更で関節負担を下げる。判断対象は「両手で持つ、軽い鍋を使う、内容物を分けて運ぶなど負荷を分散する」。関節保護では活動を禁止するのではなく、同じ目的をより少ない負荷で達成する方法を探す。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q147

治療学総論・リスク管理 > ポジショニング・関節保護・筋力等 | 基礎

筋力訓練後に疼痛増悪と翌日まで続く著明な疲労が毎回みられる。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「効果が高い証拠として負荷をさらに上げる」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 疼痛・長時間疲労は負荷過多の可能性ある。
- イ. 反応記録が処方調整に必要である。
- ウ. 疾患・病期によって限界反復が不適切なことがある。
- エ. 過負荷反応を確認し、安全な回復範囲で漸増する。

OT05 Q148

治療学総論・リスク管理 > 呼吸・嚥下・皮膚等の管理 | 標準

作業中にSpO2が低下し、強い息切れとチアノーゼが出現した。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「活動を中止し姿勢と呼吸状態を確認して医療スタッフへ報告する」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 症状を悪化させる。
- イ. 低酸素血症や呼吸状態悪化が疑われ、安全確保を優先する。
- ウ. 呼吸困難を増やす可能性がある。
- エ. 生体情報と症状を評価する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「効果が高い証拠として負荷をさらに上げる」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「症状を記録しない」に対応する説明で、判断対象「効果が高い証拠として負荷をさらに上げる」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「毎回限界まで反復する」に対応する説明で、判断対象「効果が高い証拠として負荷をさらに上げる」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「負荷量・回数・休息を見直し、回復可能な範囲へ調整する」に対応する説明で、判断対象「効果が高い証拠として負荷をさらに上げる」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。疼痛・長時間疲労は負荷過多の可能性ある。判断対象は「効果が高い証拠として負荷をさらに上げる」。筋力訓練は強度だけでなく、疾患特性、疼痛、疲労、翌日の回復を含めて処方する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。これは別の選択肢「運動強度を上げる」に対応する説明で、判断対象「活動を中止し姿勢と呼吸状態を確認して医療スタッフへ報告する」の直接の根拠ではない。

イ：正しい。これは判断対象「活動を中止し姿勢と呼吸状態を確認して医療スタッフへ報告する」が正答となる理由を直接説明している。

ウ：誤り。これは別の選択肢「息を止めて続ける」に対応する説明で、判断対象「活動を中止し姿勢と呼吸状態を確認して医療スタッフへ報告する」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「数値を無視する」に対応する説明で、判断対象「活動を中止し姿勢と呼吸状態を確認して医療スタッフへ報告する」の直接の根拠ではない。

要点

正しい。低酸素血症や呼吸状態悪化が疑われ、安全確保を優先する。判断対象は「活動を中止し姿勢と呼吸状態を確認して医療スタッフへ報告する」。内部障害・重症患者では活動そのものが生理負荷となるため、呼吸・循環反応を継続監視する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q149

治療学総論・リスク管理 > 呼吸・嚥下・皮膚等の管理 | 基礎

食事練習中にむせ、湿性嘔声、呼吸数増加がみられた。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「むせがあるほど訓練効果が高いと考える」を誤答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. むせは治療効果の指標ではない。
- イ. 誤嚥・窒息リスクがある。
- ウ. 液体が安全とは限らない。
- エ. 誤嚥を疑う所見であり食事継続より安全確認を優先する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。これは判断対象「むせがあるほど訓練効果が高いと考える」が誤答となる理由を直接説明している。

イ：誤り。これは別の選択肢「そのまま食べ続ける」に対応する説明で、判断対象「むせがあるほど訓練効果が高いと考える」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「水を大量に飲ませる」に対応する説明で、判断対象「むせがあるほど訓練効果が高いと考える」の直接の根拠ではない。

エ：誤り。これは別の選択肢「摂取を中断し、姿勢・呼吸を確認して嚥下評価のできるスタッフへ共有する」に対応する説明で、判断対象「むせがあるほど訓練効果が高いと考える」の直接の根拠ではない。

要点

誤り。むせは治療効果の指標ではない。判断対象は「むせがあるほど訓練効果が高いと考える」。食事動作支援では食具操作だけでなく、姿勢・嚥下・呼吸状態を含めて安全管理する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認

OT05 Q150

治療学総論・リスク管理 > 呼吸・嚥下・皮膚等の管理 | 標準

新しい装具装着後に骨突出部へ消えにくい発赤がみられた。最も適切なのはどれか。この論点で、選択肢「装具使用を一旦見直し、圧迫部位を確認して適合調整を行う」を正答と判断する根拠として最も適切なのはどれか。

- ア. 早期対応で褥瘡・潰瘍を防ぐ。
- イ. 装具使用中は皮膚観察が重要である。
- ウ. 皮膚損傷を悪化させる。
- エ. 持続する発赤は過剰圧迫の徴候であり早期調整が必要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。これは別の選択肢「皮膚が破れるまで使い続ける」に対応する説明で、判断対象「装具使用を一旦見直し、圧迫部位を確認して適合調整を行う」の直接の根拠ではない。

イ：誤り。これは別の選択肢「皮膚観察を中止する」に対応する説明で、判断対象「装具使用を一旦見直し、圧迫部位を確認して適合調整を行う」の直接の根拠ではない。

ウ：誤り。これは別の選択肢「発赤部へさらに圧を加える」に対応する説明で、判断対象「装具使用を一旦見直し、圧迫部位を確認して適合調整を行う」の直接の根拠ではない。

エ：正しい。これは判断対象「装具使用を一旦見直し、圧迫部位を確認して適合調整を行う」が正答となる理由を直接説明している。

要点

正しい。持続する発赤は過剰圧迫の徴候であり早期調整が必要である。判断対象は「装具使用を一旦見直し、圧迫部位を確認して適合調整を行う」。装具・車椅子・ポジショニングでは皮膚の圧迫、ずれ、湿潤を継続的に確認する。

基準：令和6年版PT・OT国家試験出題基準 / 2026-08-18確認